はじめに

令和7年度文部科学省委託事業・専修学校の国際化推進事業「沖縄県における保育士・介護福祉士グローバル人材育成オーストラリア留学促進事業」において、オーストラリアの職業専門学校への留学に必要な英語試験IELTSスコア5.5以上を目指す必要があります。本教材は、「留学前プログラム（2年目）」の学習内容を体系的に整理し、受講者が留学に必要な英語能力を段階的に身につけられるよう講師が講義にあたって注意すべき点を解説したものです。本プログラムでは、英語の基礎力を確実に固めながら、実際の留学生活や海外大学で求められるアカデミック英語力へと発展させることを目的としています。特に、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4技能を総合的に伸ばすことを重視し、授業内外での学習量を確保しながら、実践的な課題に取り組む構成となっています。

シラバス全体の流れとしては、基礎文法・語彙の再確認と技能別の基礎固めを行い、最後に試験形式への慣れ、実践的なアウトプット、アカデミックタスクへの挑戦へと進みます。特に2年目では、1年目で培った基礎力を土台に、より高度な英文読解、長文リスニング、エッセイライティング、ディスカッションなど、留学先で求められる実践的な課題に取り組む時間が増えます。

また、本プログラムの方針として「試験形式に慣れること」「十分な演習量を確保すること」を重視しています。英語力は短期間で劇的に伸びるものではなく、日々の積み重ねが成果に直結します。そのため、本教材では多様な課題や演習問題を扱い、受講者が自分の弱点を把握しながら、段階的にスコアアップを目指せる構成としています。

本教材が、受講者一人ひとりの学習を支え、留学先で自信を持って英語を使える力を育む一助となることを願っています。

教材の使い方

本教材は、授業内で扱うメイン教材を中心に構成されていますが、受講者の理解度や課題に応じて準教材を併用しながら学習を進めます。ここでは、教材および準教材の役割と使用方法について説明します。

1. メイン教材の使い方と学習方針

本教材は、留学に必要な英語力（IELTSスコア5.5以上）を総合的に伸ばすために、文法・語彙・リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの各技能をバランスよく扱っています。授業では、まず新しい知識やスキルを導入し、その後、演習問題やタスクを通して理解を深める流れで進めます。

使用教材：
・IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
（出版：旺文社、発売日：2015年09月24日）
・文脈で覚える IELTS英単語
（出版：Gakken、発売日：2024年02月29日）
・大学入試 世界一わかりやすい 英文読解の特別講座
（出版：KADOKAWA、発売日：2024年10月21日）
・実践IELTS技能別問題集 リーディング
（出版：旺文社、発売日：2020年12月15日）
・実践IELTS技能別問題集 リスニング
（出版：旺文社、発売日：2020年12月15日）
・IELTSライティング完全対策
（出版：アルク、発売日：2024年02月27日）
・IELTSスピーキング完全対策
（出版：アルク、発売日：2024年02月27日）

以下の点を重視します。

・試験形式に慣れること
　IELTS や各種英語試験の形式に慣れることで、実力を正確に発揮できるようになります。 授業では試験形式の問題を多く扱い、時間配分や解答戦略も身につけます。

・演習量を確保すること
　英語力向上には反復練習が不可欠です。授業内外で十分な演習量を確保し、弱点を補強しながら実力を積み上げます。

2. 準教材の紹介と使用方法

本プログラムでは、受講者の理解度や課題に応じて、以下の準教材を併用します。準教材は、メイン教材で扱う内容を補強し、個々の弱点を効率よく改善するためのものです。

（ア）「わかるをつくる 中学英語 新装版」

（出版：Gakken、発売日：2024年02月29日）

本教材の文法理解が難しい場合や、受講者の文法レベルを確認したい場合に使用します。特に、テキスト内にある「学習ポイント自己診断テスト」は、受講者が自分の文法知識を客観的に把握するのに非常に有効です。

使用方法としては以下の通りです。
・文法理解が追いつかない受講者に対して、該当する単元を抜粋して授業や宿題として使用
・自己診断テストを用いて文法レベルを確認し、弱点分野を特定
・不足している文法項目を重点的に復習し、メイン教材の理解を促進

この準教材は、基礎文法の抜け漏れを補い、学習の土台を強化する役割を担います。

（イ）「くもんの中学英語リスニング（中**1–3**）」

（出版：くもん出版、発売日：2021年02月03日）

リスニング力が不足している受講者に対して、能力の底上げを目的として使用します。特に、英語の音に慣れていない場合や、授業内のリスニング課題が難しいと感じる場合に効果的です。

使用方法は以下の通りです。
・宿題として定期的に取り組み、リスニング量を増やす
・基礎的な音声に繰り返し触れることで、英語の音・リズム・イントネーションに慣れる
・メイン教材のリスニング課題に取り組むための基礎力を養う

継続的に取り組むことで、リスニングの基礎体力がつき、授業で扱う高度な音声にも対応しやすくなります。

3. 準教材以外の教材の活用方針

準教材以外にも、授業では多様な教材を扱います。これらは、より実践的な英語力を身につけるために使用され、以下の方針に基づいて活用します。

・最新の知識や話題を取り入れる教材を使用し、実際の留学環境に近い学習を行う
・試験形式の問題を多く扱い、実践的なスキルを身につける
・演習量を確保し、反復練習を通して確実に力を伸ばす

これらの教材を網羅的に活用し、深く学習を進めることで、受講者は留学に必要な英語力を総合的に高めることができます。

Lesson 1: コース概要・初回レベルチェック（講師用）

使用教材：
IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

レッスン目的
・受講者のIELTS基礎力を診断する。
・各技能の現状レベルを把握する。
・今後の学習計画に必要なフィードバック材料を収集する。

指導の流れ

イントロダクション（5分）
・試験の流れを説明する。

リスニング（10分）
・過去問 Part 1 を使用。
・音声を一度通しで再生し、設問に答えさせる。
・採点基準：正答率、集中度、メモ取りの様子。

リーディング（20分）
・過去問のパッセージ1つを使用。
・設問回答後、理解度を確認。
・採点基準：正答率、文章理解の深さ、時間配分。

ライティング Task 1（20分）
・グラフや表を提示し、150語程度で要約させる。
・採点基準：
・Task Achievement（課題達成度）
・Coherence & Cohesion（論理性・構成力）
・Lexical Resource（語彙力）
・Grammatical Range & Accuracy（文法力）

スピーキング（5分）
・自己紹介のみ。
・質問例：
・What is your name?
・Where are you from?
・What are your hobbies?
・Why are you studying English?
・採点基準：発音、流暢さ、語彙の幅。

フィードバック（残り時間）
・各技能の強みと改善点を簡潔に伝える。
・次回以降の学習方針を示す。

Lesson 1: コース概要・初回レベルチェック（生徒用）

試験案内

試験の目的
本試験は、皆さんの現在の英語力を確認し、今後の学習計画を立てるためのレベルチェックです。IELTSの過去問を使用し、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングの4技能を簡易的に測定します。

試験の流れ：

リスニング（約**10**分）
・ Part 1（1セクション、1パッセージ）を使用します。
・ 日常的な会話や説明を聞き取り、設問に答えてください。

リーディング（約**20**分）
・ 1パッセージのみを使用します。
・ 短い学術的文章を読み、設問に答えてください。

ライティング（約**20**分）
・ Task 1 のみを行います。
・ グラフや表を読み取り、150語程度で要約・説明してください。

スピーキング（約**5**分）
・ 自己紹介を行います。
・ 名前、出身地、趣味、学習目的などを答えてください。

注意事項
・ 試験時間は合計で約55分です。
・ 辞書や参考書の使用は禁止です。
・ リスニングは録音音声を使用します。
・ 筆記用具を持参してください。

Lesson 2:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、「ポリネシアの発見」を題材に語彙を学び、世界史的知識を理解させること、そして「文型理解」を通じて辞書に頼らず意味を推測する力を習得させることです。「ポリネシアの発見」では探検の背景を簡単に紹介し、世界史的知識と結びつけて考えさせます。「新しい5文型の考え方」では、文型ごとの意味推測を演習形式で繰り返し習慣化させることが重要です。語彙解説を活用し、文脈から意味を推測する練習を促すことも効果的です。

語彙（**IELTS**英単語「ポリネシアの発見」）

教材概要

「ポリネシアの発見」では、ポリネシア諸島の入植の起源をめぐる人類学的な疑問を背景に、探検家トール・ヘイエルダールのコンティキ号航海を紹介しています。語彙学習は、「colonise（入植する）」「dog（気をもませる）」「pioneer（先駆者）」「ancient（先史時代の）」「seafarer（船乗り）」「discover（発見する）」などが取り上げられています。さらに「lay ~ to rest（〜を解決する）」「dub（名づける）」といった表現も、コンティキ号の航海の描写を通じて自然に学べるようになっています。

主なポイント

- colonise, dog, pioneer, ancient, seafarer, discover などの重要語彙
- lay STH to rest（解決する）、dub（名づける）などの表現
- コンティキ号航海（101日間・4300海里）を題材にした語彙学習

英文読解特講 **Section1** 新しい5文型

教材概要

「新しい5文型の考え方」では、高校英語で最初に学ぶ文型を「動詞の意味理解」に直結させる新しいアプローチが示されています。第1文型は「いる／動く」、第2文型は「S=C」、第3文型は「SがOに影響を与える」、第4文型は「与える／奪う」、第5文型は「OにCさせる／OがCだとわかる」といったように、文型ごとに動詞の意味が規定されることを強調しています。例えば「Time flies」や「The leaves turn red in fall」といった例文を通じて、辞書に頼らず文型から意味を推測する力を養成する構成になっています。

主なポイント

- 第1文型（SV）＝「いる／動く」
- 第2文型（SVC）＝「S=C」
- 第3文型（SVO）＝「SがOに影響を与える」
- 第4文型（SVOO）＝「与える／奪う」
- 第5文型（SVOC）＝「OにCさせる／OがCだとわかる」
- 文型から意味を推測する習慣を育成

S → 主語
V → 動詞
O → 目的語
C → 補語

Lesson 3:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、語彙学習と構文理解を組み合わせて、学習者が文脈から意味を推測する力を育成することです。「プラスチックの歴史」では科学史と環境問題を題材に語彙を学び、英語学習を社会的背景と結びつけます。「構文の基礎」では、長い主語(S)や複雑な構文を体系的に整理し、読解力を底上げします。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「予想と修正」の読み方を習慣化させることが重要です。サポートとしては、語彙リストや構文パターンのまとめ資料を提供し、学習者がつまずきやすい箇所を事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「プラスチックの歴史」）

教材概要

「プラスチックの歴史」は、現代社会において最も便利な発明の一つであるプラスチックの起源と発展を紹介しています。紀元前1500年のアステカ人による天然ゴムの使用から始まり、中世の職人による動物の角の利用、1862年のアレクサンダー・パークスによる「パークシン」、そして1907年の「ベークライト」に至るまでの流れを描いています。さらに、プラスチックの環境負荷への懸念と、生分解性プラスチックの登場にも触れています。語彙としては「arguably（おそらく）」「malleable（打ち延ばしのできる）」「variety　of（様々な）」「synthetic（合成の）」などが取り上げられ、文脈の中で理解できるように構成されています。

主なポイント

- 紀元前1500年のアステカ人による天然ゴムの使用
- 中世の職人による動物の角の利用
- 1862年の「パークシン」とその失敗
- 1907年の「ベークライト」によるプラスチック時代の幕開け
- 環境負荷への懸念と生分解性プラスチックの登場
- 語彙学習：arguably, malleable, synthetic, impact, launch など

英文読解特講 **Section2** 構文の基礎

教材概要

「構文の基礎（テーマ6～10）」は、英文読解における構文把握の基礎を解説しています。従来の「SとVを確認する」だけの授業から一歩進み、長いSの見抜き方や関係詞・分詞・前置詞・形容詞による修飾、さらに接続詞andの処理方法を体系的に学びます。具体的には「Participants　who were shown the complex shapes felt…」のような長いSの構造解析や、「Many of the scientific instruments sent into space…」のような過去分詞修飾の見抜き方、「Volunteers proficient at communicating…」の形容詞修飾、そしてandが複数の要素を結ぶ場合の処理方法を扱っています。

主なポイント

- 長いSの5パターン（関係詞、分詞、前置詞+名詞、to不定詞、形容詞）
- 関係詞を見たら2つめのVを予想する読み方
- 分詞修飾の過去形と過去分詞の見分け方
- 前置詞や形容詞による長いSの見抜き方
- 接続詞andの直後に注目し、対等な品詞を探す方法
- 複数のandを処理する構造解析の手順

Lesson 4:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的題材を通じて語彙を学び、構文理解を通じて文脈から意味を推測する力を育成することです。「構文の基礎」では、従属接続詞や名詞節の判別を体系的に整理し、複雑な構文を正確に読み解く力を養います。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から攻める」習慣を身につけさせることが重要です。サポートとしては、語彙リストや構文パターンのまとめ資料を提供し、学習者がつまずきやすい従属接続詞や長いSの判別について事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「豪華客船タイタニック」）

教材概要

「豪華客船タイタニック」は、1912年に沈没した世界で最も有名な難破船タイタニック号の歴史を紹介しています。出航時の新しい安全装備や救命ボート不足、船長が氷山警告を無視した経緯、そして衝突による1,500人の犠牲について描かれています。1985年にフランス・アメリカの探索団が残骸を発見し、船体が半分に割れて劣化していることが確認されました。発見後は映画制作者と協力したトレジャーハンターによって多くの歴史的遺物が見つかっています。語彙としては「recover（回収する）」「depart（出発する）」「lack of（不足）」「in hindsight（後に分かったのは）」「remains（遺物）」などが取り上げられています。

主なポイント

- 1912年の沈没と1,500人の犠牲
- 救命ボート不足と氷山警告の無視
- 1985年の残骸発見と船体の劣化
- 映画制作者と協力した遺物の発見
- 語彙学習：recover, depart, lack of, in hindsight, remains など

英文読解特講 **Section2** 構文の基礎（テーマ**11**～**15**）

教材概要

「構文の基礎（テーマ11～15）」は、従属接続詞や名詞節を作る接続詞の判別を中心に、英文読解力を高める教材です。従属接続詞onceの副詞節の扱い、because ifの複合構造、whether/if/thatによる名詞節の判別、that節がSになるパターンなどを解説しています。具体的には「Once you understand the rule, you will have no further difficulty.」や「Whether Shakespeare wrote this poem or not will remain a mystery.」などの例文を用いて、形から意味を判別する方法を学びます。

主なポイント

- 従属接続詞onceの副詞節構造（Once sv, SV.）
- because ifの複合構造の予想と解釈
- whether/if/thatが名詞節を作る場合の判別方法
- that節がSになる長いSの見抜き方
- 名詞節と副詞節の違いを「形から」判別する習慣

Lesson 5:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、ユニークな歴史的事例を通じて語彙を学び、強調構文や倒置の理解を深めることです。「アイダホのビーバー」では、ビーバー移送のユニークな方法を紹介し、学習者の興味を引きつけながら語彙を定着させます。「強調構文と倒置」では、強調構文の基本形や頻出パターンを体系的に整理し、学習者が「形から即断する」習慣を身につけることを目指します。授業運営においては、例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「強調構文を見抜く目」を養わせることが重要です。サポートとしては、語彙リストや強調構文のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「アイダホのビーバー」）

教材概要

「アイダホのビーバー」は、北米の河川に生息するビーバーが人間の生活圏に侵入し、住居や土地に被害を与える問題を背景に、1948年に行われたユニークな移送計画を紹介しています。猟区管理人たちは、第二次世界大戦で余ったパラシュートを利用し、飛行機からビーバーを投下するという方法を考案しました。最初の試験ではGeronimoと名付けられたオスのビーバーが成功し、その後メスのビーバーも加わり新しい生活を始めました。語彙としては「overpopulated（人口過剰の）」「encroach　on（侵害する）」「instinct（本能）」「relocate（移す）」「unique（独自の）」などが取り上げられています。

主なポイント

- ビーバーの過剰繁殖と人間生活への影響
- 1948年の移送計画とChamberlain Basinの環境条件
- パラシュートを用いた独自の移送方法
- Geronimoの成功例と新生活の開始
- 語彙学習：overpopulated, encroach on, instinct, relocate, unique など

英文読解特講 **Section3** 強調構文と倒置（テーマ**16**～**19**）

教材概要

「新しい強調構文と倒置の考え方（テーマ16～19）」は、強調構文と倒置の仕組みを理解させる教材です。従来の「It isとthatを隠す」方法ではなく、筆者の意図や心理を踏まえた解説を行います。強調構文の基本形「It is not A but B that ~」や頻出パターン、即断法を学び、さらに副詞や副詞句を強調する構文、until構文、疑問詞を含む強調構文などを扱います。例文として「It is not what you have, but what you are that matters.」「It was not until I climbed that mountain that I knew the pleasure of mountain-climbing.」などが提示され、強調構文を一瞬で見抜く力を養います。

主なポイント

- 強調構文の基本形と頻出パターン（It is not A but B that ~）
- 即断法：It is not ~ that … や It is only ~ that … を見たら強調構文
- It was not until ~ that … の成り立ちと訳し方
- 副詞や副詞句を強調する構文の判別方法
- 疑問詞を含む強調構文の理解

Lesson 6:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、脳科学的な題材を通じて語彙を学び、強調構文や倒置の理解を深めることです。「どうしてダンスが好き？」では、音楽と動きの調和や予測不能な要素が快楽を生む仕組みを紹介し、学習者の興味を引きつけながら語彙を定着させます。「強調構文と倒置」では、文型ごとの倒置パターンや否定語による強制倒置を体系的に整理し、学習者が「形から即断する」習慣を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「倒置を見抜く目」を養わせることが重要です。サポートとしては、語彙リストや倒置構文のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「どうしてダンスが好き？」）

教材概要

「どうしてダンスが好き？」は、人間がダンスを好む理由を脳科学的に説明する教材です。音楽が脳の報酬系を刺激し、ドーパミンを生成して快楽をもたらすこと、他者の動きを予測して模倣することが大脳皮質を刺激すること、さらに予測できない動きに対しても強い興奮を覚えることが解説されています。これらの要素が組み合わさることで、ダンスが人々に強い魅力を持つ理由が明らかになります。語彙としては「stimulate（刺激する）」「uncertainty（不確かさ）」「theory（説）」「cortex（大脳皮質）」「dopamine（ドーパミン）」などが取り上げられています。

主なポイント

- 音楽が脳の報酬系を刺激し、ドーパミンを生成する
- 他者の動きを予測・模倣することで快楽中枢が活性化する
- 予測できない動きに対しても強い興奮を覚える
- ダンスは音楽と動きの調和を楽しむ行為
- 語彙学習：stimulate, uncertainty, theory, cortex, dopamine など

英文読解特講 **Section3** 強調構文と倒置（テーマ**20**～**25**）

教材概要

「新しい強調構文と倒置の考え方（テーマ20～25）」は、倒置構文の全パターンと強調構文の応用を体系的に解説する教材です。任意倒置では文型ごとにパターンが決まっており、第1文型のMVS、第2文型のCVS、第3文型のOSV、第4文型のO_2SVO_1、第5文型のSVCOなどを扱います。強制倒置では「文頭の否定語→倒置」のパターンを分析し、rarelyやonlyなどの否定語が文頭に来た場合の語順変化を解説します。例文として「In the heart of New York City lies a narrow street…」「So beautiful was the sunset that…」「Rarely have I met such a wonderful boy」などが提示され、倒置を見抜く力を養います。

主なポイント

- 倒置には「任意倒置」と「強制倒置」の2種類がある
- 任意倒置は文型ごとに決まったパターン（MVS, CVS, OSV, O_2SVO_1, SVCO）
- 強制倒置は文頭の否定語により疑問文の語順になる
- 「not until ~」「only then」など副詞が割り込むパターンが頻出
- 倒置の訳し方は「元の語順に戻す」か「倒置語順で訳す」の2通り

Lesson 7:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、AIによる芸術の事例を通じて語彙を学び、芸術の価値や人間の役割について考えさせること、そして第1文型の特殊な構造を理解させることです。「AIによる芸術」では、芸術の価値や希少性の議論を取り上げます。「特殊な第1文型」では、倒置や同格のthat、There is構文の役割を体系的に整理し、学習者が文構造を正しく見抜ける力を養います。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から即断する」習慣を身につけさせることが重要です。サポートとしては、語彙リストや構文パターンのまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「**AI**による芸術」）

教材概要

「AIによる芸術」は、人工知能が芸術作品や音楽を創造する可能性を取り上げた教材です。Rutgers大学の科学者たちはAIを用いて絵画や音楽を一から生成し、一般人の75%が人間の芸術家によるものと信じるほどの説得力を持つ作品を生み出しました。AIによる音楽も、場当たり的な音符の集まりではなく、実際に旋律を持つものとして提示されています。この進歩は二つの問題を提起します。第一に、コンピュータが作った芸術の真の価値は何か。希少性が価値を生むのであれば、複製可能なAI作品はどう評価されるのか。第二に、芸術家が不要になるのではないかという懸念です。芸術は自動化による失業から人間を守る最後の領域と考えられてきましたが、その安全性も揺らぎつつあります。語彙としては「perspective（見方）」「interpret（解釈する）」「credible（もっともらしい）」「scarcity（希少性）」「redundant（不要になる）」などが取り上げられています。

主なポイント

- AIが絵画や音楽を一から生成できるようになった
- 一般人の75%がAI作品を人間の作品と誤認した
- AI音楽は旋律を持ち、革新的な表現が可能
- 芸術の価値は希少性に基づくが、AI作品は複製可能
- 芸術家が不要になる可能性への懸念
- 語彙学習：perspective, interpret, credible, scarcity, redundant など

英文読解特講 **Section4** 特殊な第１文型

教材概要

「特殊な第1文型」は、大学入試で頻出する第1文型の変形パターンを解説する教材です。特に「the fact remains that ~」や「There is構文」の正しい理解を扱います。第1文型の変形では、同格のthatや関係副詞がSの説明として後ろに移動するパターンが多く見られます。例えば「The time will come when you will travel to the moon」のように、Sの説明が後ろに置かれることで強調が生まれます。また、There is構文は新情報を提示する目印であり、MVSという倒置の形を取ります。さらに「There being ~」の形は分詞構文や動名詞として使われ、文脈に応じて副詞的または名詞的に機能します。

主なポイント

- the fact remains that ~ は第1文型の変形パターン
- Sの説明は同格のthatや関係副詞で後ろに移動する
- There is構文は新情報提示の目印でありMVSの倒置形
- There used to be ~ は「昔は～があった」という意味

- There being ~ は分詞構文（副詞的）または動名詞（名詞的）として機能
- 語法の整理：think型動詞（think/dream/complain）と組み合わせて理解

Lesson 8:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、学校広告の事例を通じて語彙を学び、教育理念を理解させること、そして語彙を「因果表現」「イコール表現」「重要性」といった文脈的な意味で捉える力を育てることです。「才能あふれる子供たちへの学校広告」では、自立心や創造性を育む教育方針を紹介し、学習者に「教育理念を英語で説明できる力」を養わせます。「語彙から真の読解へ」では、因果表現やイコール表現を矢印や定義として理解させ、学習者が英文を論理的に読み解く力を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「語彙を文脈で即断する習慣」を身につけさせることが重要です。サポートとしては、因果表現・イコール表現・重要語彙のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすい箇所を事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「才能あふれる子供たちへの学校広告」）

教材概要

「才能あふれる子供たちへの学校広告」は、全寮制の学校が才能ある子供たちの成長を促すために掲げる教育方針を紹介しています。学校は「過保護にしない」「自立心を育てる」ことを重視し、子供たちに自分のベッドを整えたり食事を作ったりする習慣を身につけさせます。これにより自己能力への信頼が高まり、仲間に頼ることで強い絆を持つ友人関係を築きます。また、試行錯誤を通じてノウハウを獲得し、予測できない結果から創造性を磨きます。さらに、感情をスポーツなどの建設的な活動に向けるよう指導します。学校は人気が高く、キャンセル待ちが百単位に達しているため、早めの申込を推奨しています。社会的に困難な家庭には補助金も提供されます。語彙としては「gifted（才能ある）」「blueprint（計画）」「self-reliance（自立）」「trial and error（試行錯誤）」「inventiveness（創造性）」などが取り上げられています。

主なポイント

- 子供を過保護にせず、自立心を育成する方針
- 自分でベッドを整え食事を作る習慣を通じて自信を育む
- 仲間に頼り、強い絆で結ばれた友人関係を形成
- 試行錯誤を通じてノウハウを獲得し、創造性を磨く
- 感情をスポーツなど建設的な活動に向ける指導
- 人気校であり、申込は早めに必要。社会的困難な家庭には補助金あり
- 語彙学習：gifted, blueprint, self-reliance, trial and error, inventiveness など

英文読解特講 **Section5** 語彙から真の読解へ

教材概要

「語彙から真の読解へ」は、単語の意味を単なる訳語ではなく「因果関係」や「イコール表現」として理解することで、英文読解力を高める教材です。因果表現では cause, lead to, result in, contribute to などを「原因→結果」の矢印で捉え、受動態でも因果関係を即座に把握できるようにします。イコール表現では involve, refer to, mean などを「～を意味する」と理解し、定義文や説明文を読み解く力を養います。また、「重要な」という意味を持つ形容詞（significant, crucial, essential など）や動詞（matter, count）をまとめて学び、筆者の主張を見抜く力を強化します。

主なポイント

- 因果表現を「原因→結果」の矢印で理解する
- contribute to ~ を「貢献する」だけでなく「結果につながる」と捉える
- contribute to ~ を「イコール表現」として理解し、定義文を読み解く
- 「重要な」を意味する形容詞（crucial, essential, significant など）を整理

- 動詞 matter, count を「重要だ」として理解する
- 語彙を文脈に即して「真の読解」に活用する方法を習得

Lesson 9:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、未来技術の事例を通じて語彙を学び、文法を「形から」判別する力を育てることです。「ハイパーループ」では、技術革新と社会的課題を紹介し、学習者に「技術と社会の関係」を考えさせます。「まぎらわしい文法の判別」では、不定詞・動名詞・分詞構文・asの用法を体系的に整理し、学習者が「文法を即断する」習慣を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から攻める」思考を定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストや文法判別のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「ハイパーループ」）

教材概要

「ハイパーループ」は、サンフランシスコからロサンゼルスまで30分以内で移動できる未来型鉄道計画を紹介する教材です。ネットビジネスで一夜にして成功した有名な起業家が資金を投じ、磁石を利用してポッドをチューブ内で高速移動させる画期的な技術を開発しました。記録破りの速さで目的地に到達できる一方で、課題も存在します。最大の問題はコスト削減と安全性の確保です。料金が法外に高いことに加え、現状では緊急時に十分な減速ができず、カリフォルニア州の安全基準を満たしていません。さらに、地元政府を説得して認可を得るまでには長い時間がかかると予想されます。語彙としては「entrepreneur（起業家）」「ground-breaking（画期的な）」「stumbling block（障害）」「exorbitant（法外な）」「decelerate（減速する）」などが取り上げられています。

主なポイント

- サンフランシスコ～ロサンゼルス間を30分以内で結ぶ未来型鉄道計画
- 起業家による資金提供と磁石を用いた高速移動技術
- 記録破りの速さで目的地に到達可能
- 課題：コスト削減、安全基準の遵守、緊急時の減速問題
- 地元政府の認可が必要で、長期的な遅延が予想される
- 語彙学習：entrepreneur, ground-breaking, stumbling block, exorbitant, decelerate など

英文読解特講 **Section6** まぎらわしい文法の判別

教材概要

「まぎらわしい文法の判別」は、不定詞や-ing形、asの用法など、受験生が混乱しやすい文法を「形から」判別する方法を解説する教材です。文頭のTo不定詞はSになる場合は名詞的用法、余分なカタマリなら副詞的用法と判断します。文頭の-ingはSになるなら動名詞、ならない場合は分詞構文です。さらに、接続詞asは「同時」という根底の意味から派生し、比例・様態・理由・譲歩などを文脈と動詞の種類（比較級、変化動詞、移動動詞、反復表現など）で判別します。例文として「To keep early hours is good for the health.」「Learning to write means growing into a more complex person.」「As time passed, things seemed to get worse.」「Spiders weave complex webs … just as humans use complex language.」などが提示され、文法を形から即断する力を養います。

主なポイント

- 文頭のTo不定詞：Sになる→名詞的用法、ならない→副詞的用法
- 文頭の-ing：Sになる→動名詞、ならない→分詞構文
- asの判別：すべて「同時」から派生、比例・様態・理由・譲歩などを形で見抜く

- 様態のasは反復・代動詞・省略が目印、just/much/soが付く場合は様態を強調
- 文法を「訳」ではなく「形」から判別する習慣を身につける

Lesson 10:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、教育史上の人物の事例を通じて語彙を学び、文法を「構造理解」から即断する力を育てることです。「マリア・モンテッソーリの生涯」では、女性教育者の挑戦と教育理念を紹介し、学習者に「教育の意義を英語で説明できる力」を養わせます。「文法から真の読解へ」では、比較・受動態・仮定法を体系的に整理し、学習者が「公式暗記ではなく構造から即断する」習慣を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から攻める」思考を定着させることが重要です。サポートとしては、文法判別のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「マリア・モンテッソーリの生涯」）

教材概要

「マリア・モンテッソーリの生涯」は、近代教育に大きな影響を与えた女性教育者の人生を紹介する教材です。モンテッソーリ（1870–1952）は、子供たちが適切な教育を受ける権利のために生涯を捧げました。名家に生まれ、父の承認を得て医師を志しましたが、当時女性が医学部に進むことは慣習への挑戦であり、唯一の女性学生として大きな反発を受けました。それでも彼女は驚異的な記憶力と粘り強さで優秀な成績を収めました。フィレンツェで貧しい子供たちと関わる中で「子供は生まれつき学びたいという欲求を持つ」という理論を打ち立て、強制ではなく自主性を重視する教育法を確立しました。これが「モンテッソーリ教育」であり、「学ぶことへの愛・自立・責任」を強調するものでした。この方法は世界中で採用され、模倣されるようになりました。第二次世界大戦中には自由と平和を擁護したためムッソリーニのファシストと衝突し、インドに亡命して戦後まで滞在しました。その後の教育界への影響は広範囲に及び、現在も高い評価を受けています。

主なポイント

- 女性医師として慣習に挑戦し、反発を受けながらも優秀な成績で卒業
- 「子供は生まれつき学びたい」という理論を提唱
- 「モンテッソーリ教育」＝学ぶことへの愛・自立・責任を強調
- 世界中で採用・模倣される教育法となった
- 戦後も教育界に広範な影響を与え、正当な評価を受け続けている

英文読解特講 **Section7** 文法から真の読解へ（テーマ**37**～**40**）

教材概要

「文法から真の読解へ（テーマ37～40）」は、比較・受動態・仮定法などを「公式暗記」ではなく「構造理解」から読解に活かす方法を解説する教材です。no more ~ than … の構文は「矢印2つ」で「全然～でない／むしろ反対」と「…と同じくらい」の両方を理解することが重要です。受動態は「～される」と訳すのではなく、能動態に戻して主語やby句の強調を見抜くことがポイントです。仮定法はif節に頼らず、助動詞の過去形（would/couldなど）を目印にし、if省略による倒置や副詞句・名詞句による代用表現を理解します。

主なポイント

- no more ~ than … は「矢印2つ」で即断（全然～でない／…と同じくらい）
- 受動態は「～される」ではなく能動態に戻してby句を強調
- be followed by ~ は「矢印」で順位や順序を表す
- 仮定法は助動詞の過去形を目印にし、if省略や倒置を見抜く
- if節の代用表現（with/without、不定詞、副詞句、otherwise、A+名詞など）を理解

Lesson 11:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、嘘という人間行動を題材に語彙を学び、認知発達や社会的機能を理解させること、そして文法を「形から」判別して読解力を高めることです。「どうして人はウソをつくの？」では、進化心理学的な視点から嘘の役割を紹介し、学習者に「嘘の社会的機能」を英語で説明できる力を養わせます。「文法から真の読解へ」では、分詞構文や関係代名詞を体系的に整理し、学習者が「返り読みせずに構造から即断する」習慣を身につけることを目指します。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「形から攻める」思考を定着させることが重要です。サポートとしては、嘘に関する語彙リストや文法判別のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「どうして人はウソをつくの？」）

教材概要

「どうして人はウソをつくの？」は、人間が嘘をつく行為を進化・認知科学的に説明する教材です。嘘は一見問題行為に見えますが、実は人間の脳が洗練されている証拠であり、言語能力を獲得した直後から人類は嘘をつき始めたと考えられています。暴力を使わずに人を操る能力は進化上の利点であり、巧妙な嘘をつける特質は世代を超えて受け継がれてきました。人が嘘をつく理由は多様です。集団内で立場を高めるために自分のイメージを誇張する場合もあれば、相手をなだめ傷つけないために「white　lie（罪のない嘘）」を用いることもあります。さらに、子供が嘘をつけるようになることは成長の節目であり、認知力の発達を示す重要な指標です。トロント大学の研究では、2歳児の30%しか嘘をつけず、アイコンタクトを避けるなど明らかな兆候を示しましたが、8歳になると嘘を隠すために別の嘘を重ねることができるようになります。この急激な変化は認知力の成熟を示し、子供が順調に成長している証拠とされています。

主なポイント

- 嘘は脳の高度な発達を示す証拠であり、進化上の利点を持つ
- 人は立場を高めるため、または相手をなだめるために嘘をつく
- 「white lie」は社会的緊張を和らげる役割を果たす
- 子供の嘘は認知力の発達を示す重要なマイルストーン
- 2歳児は嘘が下手だが、8歳になると洗練された嘘をつけるようになる
- 語彙学習：troubling, sophisticated, deceitful, manipulate, trait, milestone, cognition, maturity など

英文読解特講 **Section7** 文法から真の読解へ（テーマ**41**～**44**）

教材概要

「文法から真の読解へ（テーマ41～44）」は、分詞構文・関係詞などを「形から」理解し、長文読解に活かす方法を解説する教材です。分詞構文は「副詞のカタマリ」として扱い、位置によって「～して」「～で」「そして～」など適当に意味をつなぐのが本質です。関係代名詞は「形容詞節を作る」「後ろは不完全な文になる」という原則を押さえ、返り読みせず「代入法」で処理することで複雑な文もスムーズに読めます。さらに、関係代名詞の省略や不定詞の副詞的用法を見抜く力を養います。

主なポイント

- 分詞構文は「余分な-ing」で副詞的に処理し、位置によって訳し方を決める
- SV, leading to … のように「前の内容」が分詞構文の主語になるパターンを理解する
- 関係代名詞は「不完全な文」を探すことが基本

- 関係代名詞省略時は「名詞 SV」の形に注意
- 「代入法」で返り読みせずに関係詞を処理する
- 不定詞の副詞的用法を見抜き「～するために」と訳す

Lesson 12:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、動物の生態を題材に語彙を学び、環境問題や社会性について考えさせること、そして英文を自然な日本語に訳すための技術を習得させることです。「マウンテンゴリラ」では、絶滅危機や社会構造を通じて「生物の多様性と保護の重要性」を理解させます。「和訳の技術」では、名詞構文・比較・無生物主語などを具体的なテクニックで処理し、学習者が「直訳ではなく自然な和訳」を作れるようにします。例文を用いた構造解析を繰り返し演習し、学習者に「動詞っぽく訳す」「比較対象を補う」などの習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「マウンテンゴリラ」）

教材概要

「マウンテンゴリラ」は、絶滅の危機に瀕しているゴリラの生態と社会構造を紹介する教材です。マウンテンゴリラは人類に最も近い霊長類の一つであり、現存数は千頭未満とされています。科学者たちは自然生息地で彼らを観察し、保護活動を急いでいます。群れは「アルファ雄」を頂点とした厳格な社会構造を持ち、餌場への移動や家族の防衛をリーダーが指揮します。アルファ雄のみが子供を持つ権利を持ち、若い雄は成人期に銀色の毛が背中に現れると、群れに残ってリーダーに挑戦するか、新しい群れを作るかの選択を迫られます。ゴリラの日常は「休息・放浪・採集」の三部構成で、水分は葉から摂取します。肉食はほとんどせず、例外的にグンタイアリを珍味として食べます。棒を使ってアリを捕まえる行動は、人間同様「道具を使う生物」である証拠です。教材では「peril（危機）」「scramble（急いで～する）」「rigid（厳格な）」「dominance（支配）」「foraging（採集）」などの語彙を学びながら、環境問題や動物の社会性について考えるきっかけを与えます。

主なポイント

- 絶滅の危機にある霊長類で、現存数は千頭未満
- 群れはアルファ雄を頂点とした厳格な社会構造
- 若い雄は成人期に銀色の毛が現れ、群れに残るか独立するかを選択
- 日常は休息・放浪・採集の三部構成、水分は葉から摂取
- グンタイアリを珍味として棒を使って捕獲＝道具使用の証拠
- 語彙学習：peril, scramble, rigid, dominance, foraging, hydration, delicacy など

英文読解特講 **Section8** 和訳の技術

教材概要

「和訳の技術」は、英文を自然な日本語に訳すための具体的なテクニックを解説する教材です。名詞構文を「動詞っぽく」訳すことで日本語を柔らかくし、depend on ~ を「～次第だ」と訳すことで意味を正しく捉えます。また、more than ~ を「～以上」ではなく「～ではない／～だけではない」と訳す方法、比較対象の省略を補って自然な日本語にする方法、無生物主語の第3文型を受動態で訳すことで筆者の意図を明確にする方法などを学びます。さらに、in -ing の自然な訳し方や疑問詞変換を活用して、硬い直訳から脱却し、筆者の主張を正しく理解する力を養います。

主なポイント

- 名詞構文は「動詞っぽく」訳すことで自然な日本語にする
- depend on ~ は「～次第だ」「～によって決まる」と訳す
- more than ~ は not / not only の意味で捉える
- 比較対象は省略されることが多く、文脈から補う

- 無生物主語の第3文型は受動態で訳すと自然になる
- in -ing は「率先して〜する」など副詞的に処理すると自然
- 疑問詞変換で「程度→どれくらい」「場所→どこに」と柔らかく訳す

Lesson 13:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、食文化と農業技術の進化を題材に語彙を学び、文明史との関連を理解させること、そしてIELTSリーディングの構造と攻略法を体系的に習得させることです。「オリーブの栽培」では、食材加工の工夫と歴史的背景を紹介し、学習者に「食文化と技術革新の関係」を考えさせます。「IELTSリーディングテスト」では、設問形式やトレーニング法を具体的に解説し、学習者が「効率的にリーディング力を高める」習慣を身につけることを目指します。学習者に「キーワードを探す」「速読と精読を組み合わせる」習慣を定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストやリーディング攻略のまとめ資料を提供し、学習者が混乱しやすいパターンを事前に解説するガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「オリーブの栽培」）

教材概要

「オリーブの栽培」は、人類の文明史と深く関わるオリーブの歴史と加工法を紹介する教材です。新鮮なオリーブは非常に苦く、野生動物から種を守る防御機構として機能しています。しかし人間はこの食べられない果実を工夫して食用に改良してきました。文明の黎明期から栽培され、最初はトルコとシリアの国境沿いの緑豊かな地域で数千年前に始まりました。農民は油分の多さに価値を見出し、利用を試みました。初期には塩水に浸して苦味を取り除きましたが、これは長く骨の折れる作業でした。ローマ人は燃やした木材から作ったアルカリ液（苛性ソーダ）を水に加え、処理時間を大幅に短縮しました。処理後はオリーブを圧搾して油を抽出し、密閉容器に保存して腐敗を防ぎました。現代では世界のオリーブ生産の大半がスペインの耕作に適した地域から供給されています。温暖な気候と空気中の湿度がオリーブの成長を支えています。教材では「defense mechanism（防御機構）」「inedible（食べられない）」「verdant（緑豊かな）」「soak（浸す）」「cure（保存処理）」「temperate（温暖な）」などの語彙を学びながら、食文化と農業技術の進化を理解することができます。

主なポイント

- 新鮮なオリーブは苦味によって種を守る防御機構を持つ
- 文明の黎明期から栽培され、最初はトルコ・シリア国境の緑豊かな地域で始まった
- 初期は塩水に浸して苦味を除去するが、時間がかかる方法だった
- ローマ人がアルカリ液を加え、処理時間を短縮した
- 処理後は油を抽出、または密閉容器で保存
- 現代の生産の大半はスペインの温暖な耕作地から供給される
- 語彙学習：defense mechanism, inedible, verdant, soak, cure, temperate, thrive, moisture など

IELTSリーディング **Chapter1** 基本知識

教材概要

「IELTSリーディングテストの基本知識」は、IELTSアカデミックリーディングの構成と攻略法を解説する教材です。テストは3つの長文（パッセージ）で構成され、合計40問が出題されます。時間は60分で、各パッセージの目安は20分です。設問形式は「選択式」「正誤式」「記述式」に分かれ、さらに細かく11種類のタスクタイプがあります。

リーディング力を高めるために必要な「5つの力」は、①語彙力、②文法力、③構文力、④速読力、⑤精読力です。トレーニング方法として「音読」「スラッシュリーディング」「スキャニング」「精読」「スキミング」を組み合わせ、速読と理解を両立させます。教材では、パッセージの主旨を最初の2分

で把握し、設問のキーワードを探しながら必要な情報を丁寧に読む方法を具体的に示しています。

主なポイント

- 3つの長文（パッセージ）で構成、合計40問、制限時間60分
- 設問形式：選択式（多項選択・見出しマッチングなど）、正誤式（TRUE/FALSE/NOT GIVEN）、記述式（サマリー完成・文完成など）
- 語彙力・文法力・構文力・速読力・精読力が必要
- トレーニング法：音読、スラッシュリーディング、スキャニング、精読、スキミング
- 時間配分の目安：「18分・21分・21分」＝パッセージ1を短め、パッセージ2・3を長めに設定
- バンドスコアは正答数で換算（例：35問正解＝8.0）
- 本番では「パッセージを全部読もうとしない」「設問→パッセージ→解答」の流れを徹底

Lesson 14:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、ロボット工学の挑戦を題材に語彙を学び、科学技術の社会的応用を理解させること、そしてIELTSリーディングの多項選択問題を体系的に練習させることです。「ロボカップ」では、サッカーという複雑な動的環境を通じて「ロボット技術の限界と可能性」を考えさせます。「多項選択問題演習」では、設問形式ごとの攻略法を具体的に解説し、学習者が「設問→パッセージ→解答」の流れを習慣化できるようにします。学習者に「キーワードを探す」「言い換えに注意する」習慣を定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストやリーディング攻略のまとめ資料を提供し、準備します。

語彙（**IELTS**英単語「ロボカップ」）

教材概要

「ロボカップ」は、京都大学の教授らによって1997年に創設された国際的なロボット工学大会を紹介する教材です。ロボカップはサッカー競技を通じて最新のロボット技術を披露する場であり、2017年までに50か国以上から500チームが参加する規模に拡大しました。大会の究極の目標は「2050年までに人間のFIFAワールドカップ優勝チームを打ち負かすサッカーロボットチームを作ること」です。

なぜサッカーなのかという問いに対して、教材は「チェスのような静的ゲームと違い、サッカーは動的でリアルタイムの反応が必要」と説明します。選手はボール・ゴール・他の選手との位置関係を瞬時に判断しなければならず、現状のロボットは多様な変数に対応できず、試合では「ぎこちない幼児」のように見えます。実現可能なロボットサッカーチームはまだ遠い未来ですが、成功すれば科学的な突破口となり、老人介護・捜索救助・肉体労働など幅広い応用が期待されています。

主なポイント

- 1997年に京都大学教授らが創設
- サッカー競技を通じて最新ロボット技術を披露
- 2017年までに50か国以上・500チームが参加
- 目標：2050年までに人間のワールドカップ優勝チームを打ち負かすロボットチーム
- サッカーは動的でリアルタイムの反応が必要＝チェスより難易度が高い
- 現状のロボットは多変数に対応できず「幼児のよう」な動き
- 成功すれば科学的突破口となり、介護・救助・労働など応用範囲が広い
- 語彙学習：state-of-the-art, formidable, dynamic, adept at, variable, breakthrough, application など

IELTSリーディング **Chapter2** 多項選択問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：多項選択問題」は、IELTSアカデミックリーディングで頻出するタスクタイプの一つ「多項選択問題」を体系的に練習する教材です。設問に対して複数の選択肢から正しいものを選ぶ形式で、4択1問や5択2問が主流です。教材では、設問の先読み、キーワードの設定、パッセージから根拠を探す方法、選択肢の吟味と解答までのプロセスを具体的に解説しています。

主なポイント

- 設問形式：4択1問、5択2問が中心
- 解答プロセス：①設問からキーワードを設定 → ②パッセージで根拠を探す → ③選択肢を吟

味して解答
- 言い換え表現に注意（例：stones → rock, excessive smoke → cloudy fumes）
- 解答の根拠は設問の順に登場することが多いが、必ずしもそうではない
- 他の選択肢が不正解となる根拠を考える時間はないため、正解に合致する選択肢を選ぶ感覚が重要
- 演習問題では「水の運搬による影響」「古代の調理法」などを題材に、設問とパッセージの対応を練習

Lesson 15:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、科学史における発明家の挑戦を題材に語彙を学び、技術革新の社会的影響を理解させること、そしてIELTSリーディングの見出しマッチング問題を体系的に練習させることです。「ニコラ・テスラと電流戦争」では、科学者の対立と交流電流の勝利を通じて「技術革新と社会的評価の変化」を考えさせます。「見出しマッチング問題演習」では、段落ごとの主旨を見抜く力を養い、学習者が「段落全体を読んで主旨を把握する」習慣を身につけることを目指します。例文や演習問題を用いた構造解析を繰り返し行い、学習者に「主旨を抽出する」「言い換えに注意する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「ニコラ・テスラと電流戦争」）

教材概要

「ニコラ・テスラと「電流戦争」」は、19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍した発明家ニコラ・テスラと、彼が対立したトーマス・エジソンの物語を紹介する教材です。テスラはエジソンの直流電流（DC）システムを改良しようとしましたが、交流電流（AC）を推進する彼の考えにエジソンは冷淡で、両者の関係は急速に悪化しました。交流電流は長距離送電が可能で、直流の「くすんだ光」とは異なり明るい光を生み出すことができました。

両者はやがて「電流戦争」と呼ばれる激しい対立を繰り広げ、互いに奇抜な実演で相手を出し抜こうとしました。エジソンは交流の危険性を示すために象を感電死させるという非道な実験まで行いましたが、最終的には交流の利点が勝利しました。テスラはその後、ナイアガラの滝の水力発電計画を立案し、X線、遠隔操作、人工衛星などの発明で人々を驚かせました。彼は無線による無料電力供給を目指しましたが、資金調達に失敗し、晩年は一文無しで亡くなりました。彼は「マッドサイエンティスト」の典型とされる一方、かつて曖昧視されていた業績は今日再評価されています。

主なポイント

- テスラはエジソンの直流電流システムを改良しようとしたが、交流電流をめぐり対立
- 交流電流は長距離送電が可能で、直流より明るい光を生み出す
- 両者は「電流戦争」を展開し、エジソンは象を感電死させる実験まで行った
- 最終的に交流電流が勝利し、テスラは水力発電やX線、遠隔操作などを発明
- 無線による無料電力供給を目指すも失敗し、晩年は貧困の中で死去
- 「狂気の科学者」の典型とされるが、今日では功績が再評価されている
- 語彙学習：direct current, alternating current, revamp, sour, stunt, electrocute, hydropower, obscure, accomplishment など

IELTSリーディング **Chapter2** 見出しマッチング問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：見出しマッチング問題」は、IELTSアカデミックリーディングで難度が高いタスクタイプの一つ「見出しマッチング問題」を体系的に練習する教材です。各段落やセクションの主旨を表す見出しリストから適切なものを選ぶ形式で、抽象的な表現や不正解の見出しが含まれるため、正しい主旨を見抜く力が求められます。

主なポイント

- 各段落の主旨を把握し、見出しリストから適切なものを選ぶ
- 主旨＝筆者が最も伝えたい内容（Topic sentenceや段落全体から判断）

- 見出しリストには正解にならないものも含まれるため注意
- 解答プロセス：①見出しリストを確認 → ②段落全体を読んで主旨を把握 → ③見出しリストから適切なものを選択
- 言い換え表現に注意し、段落の内容と見出しを対応させる
- 演習問題では「シャンプーの進化」「髪の構造」「シャンプーの利点」「医学的欠点」「表面的な魅力」「廃棄」「生産コスト」などを題材に練習

Lesson 16:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、倫理的ジレンマを題材に語彙を学び、現実世界の技術課題と結びつけて考える力を養うこと、そしてIELTSリーディングの情報マッチング問題を体系的に練習させることです。「ある思考実験」では、功利主義と生存本能の対立を通じて「倫理的判断の複雑さ」を考えさせます。「情報マッチング問題演習」では、段落ごとの情報を正しく抽出する力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」習慣を身につけることを目指します。学習者に「段落全体を読んで情報を探す」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「ある思考実験」）

教材概要

「ある思考実験」は、倫理学の代表的な課題「トロッコ問題」を題材にした教材です。暴走する路面電車が5人に突進しており、レバーを引けば進路を変えて1人を犠牲にすることができます。学習者は「何もせず5人を死なせる」か「レバーを引いて1人の死の責任を負う」かという二択に直面します。この問題は功利主義（Utilitarianism）の観点から「犠牲者を最小化するためにレバーを引くべき」という明確な倫理義務を示す一方、多くの人がためらう選択でもあります。

教材はこの思考実験を現実世界に結びつけ、自動運転車（SDC）の倫理的課題を考察します。例えば、自動運転車が歩行者に衝突しそうになった場合、乗員を危険にさらしてでも歩行者を守るべきかという問題が生じます。人間の「生存本能」と功利主義的な「犠牲者最小化」の選択が対立する点を学習者に考えさせます。

主なポイント

- トロッコ問題：5人 vs 1人の命をめぐる倫理的選択
- 功利主義：犠牲者を最小化するための明確な義務
- 多くの人は「1人を犠牲にする」選択をためらう心理
- 現実世界への応用：自動運転車の倫理的判断
- 生存本能と功利主義的選択の対立
- 語彙学習：runaway, divert, accountable, ethical, dilemma, application, autonomous, pedestrian, mitigate, in conflict with など

IELTSリーディング **Chapter2** 情報マッチング問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：情報マッチング問題」は、IELTSアカデミックリーディングで難度が高いタスクタイプの一つ「情報マッチング問題」を体系的に練習する教材です。設問に示された「理由・説明・例・提案」などの情報がどの段落に含まれているかを判断し、適切な段落記号を選ぶ形式です。

主なポイント

- 設問形式：情報リストと段落を対応させる
- 解答プロセス：①情報リストからキーワードを拾う → ②段落を読み進めて該当箇所を探す → ③段落番号を選択
- 言い換え表現に注意（例：health hazards → lethal consequences, economic development → wealth）
- 段落全体を読まないと主旨が見えない場合が多い
- 設問順と段落順は一致しないため冷静に対応する必要がある

- 演習問題では「水供給網の要件」「汚染水の健康被害」「豊富な水資源を持つが利用できない国」「国際援助の問題」「経済発展の限界」「シンプルな水浄化方法」などを題材に練習

Lesson 17:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、人類の未来と進化を題材に語彙を学び、科学的想像力を養うこと、そしてIELTSリーディングの特徴マッチング問題を体系的に練習させることです。「火星で暮らす」では、火星環境が人類に与える影響を通じて「科学的推測と進化の可能性」を考えさせます。「特徴マッチング問題演習」では、人物や発明と特徴を正しく対応させる力を養い、学習者が「言い換えを見抜く」「具体と抽象を結びつける」習慣を身につけることを目指します。学習者に「段落から特徴を抽出する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「火星で暮らす」）

教材概要

「火星で暮らす」は、人類の長期的な生存を確保するために火星の植民地化を求める科学者たちの議論を紹介する教材です。環境破局や予期せぬ天文事象によって地球が居住不可能になる可能性があり、絶滅を防ぐために「多惑星種（multi-planet species）」になるべきだと主張されています。火星での隔離生活は突然変異を引き起こし、それが世代を超えて伝わることで新しい人類の亜種が生まれる可能性もあります。

教材では「火星人」の外見的特徴について科学的推測を提示しています。重力が地球の38%と軽いため、頭や手足の骨が厚くなり、がっしりした外見になると考えられます。また脊椎が伸びて背が高くなる可能性もあります。皮膚の色については放射線に対抗するために暗い色になると予測され、さらに太陽から遠いため光が少なく、視力を補うために目が大きくなる必要があるとされています。

主なポイント

- 科学者は人類の長期生存のため火星植民地化を提唱
- 環境破局や天文事象で地球が居住不可能になる可能性
- 火星での隔離生活は突然変異を引き起こし、新しい亜種が生まれる可能性
- 語彙学習：multi-planet, mutation, subspecies, Martian, robust, elongate, counterbalance, vision など

IELTSリーディング **Chapter2** 特徴マッチング問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：特徴マッチング問題」は、IELTSアカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「特徴マッチング問題」を体系的に練習する教材です。研究者や発明者などの人物名、動植物や製品名などの特定情報と、それに関連する「考え・意見・特徴」を対応させる形式です。

主なポイント

- 設問形式：人物や名称と特徴を対応させる
- 解答プロセス：①名前リストを確認 → ②パッセージで該当箇所を探す → ③記述リストと照合して解答
- 言い換え表現に注意（例：火を完全に囲い込む → heat source totally contained）
- 段落ごとに複数の人物や特徴が登場する場合もある
- 演習問題では「偶然の発明」「複数料理の同時調理」「火源の封じ込め」「調理時間の短縮」「家庭衛生の改善」「燃料供給後の普及」「掃除の容易化」などを題材に練習

Lesson 18:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、宇宙科学の脅威を題材に語彙を学び、科学的課題への対応策を考える力を養うこと、そしてIELTSリーディングの文末マッチング問題を体系的に練習させることです。「小惑星の衝突」では、科学的事実と人類の危機管理を通じて「科学技術と倫理的判断の両立」を考えさせます。「文末マッチング問題演習」では、文の前半と後半を正しく結びつける力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」習慣を身につけることを目指します。学習者に「文全体を完成させる」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「小惑星の衝突」）

教材概要

「小惑星の衝突」は、6500万年前に恐竜を絶滅させた小惑星の事例を導入に、人類が直面する可能性のある小惑星衝突の脅威とその対策を紹介する教材です。マンション一棟ほどの大きさの岩石が地球の軌道に接近し、重力に引き寄せられることは定期的に起こっています。もし巨大な小惑星が大気圏に突入すれば、計り知れない破壊をもたらすでしょう。近年になってようやく小惑星の軌道追跡が始まり、危険な小惑星にどう対処するかが問われています。NASAと日本の宇宙航空研究開発機構（JAXA）の共同プロジェクトでは、2つの解決策が提示されています。1つ目は、事前に十分な時間があればロケットを発射して小惑星を衝突コースから逸らす方法です。ただし、少なくとも50年前から準備が必要で、危機的状況では非現実的です。2つ目は核兵器で爆破する方法ですが、破片が分裂して地球に衝突する可能性が残るという欠点があります。教材は「wipe out（絶滅させる）」「inevitable（避けられない）」「trajectory（軌道）」「divert（そらす）」「alternative（代替案）」「blow up（爆破する）」などの語彙を学びながら、科学的課題と倫理的判断を考察する内容になっています。

主なポイント

- 6500万年前の恐竜絶滅は小惑星衝突によるもの
- 巨大な岩石が地球の軌道に接近し、重力に引き寄せられる危険性
- 大気圏突入による計り知れない破壊の可能性
- NASAとJAXAの共同プロジェクトによる2つの解決策
- ロケットで衝突コースから逸らす（事前準備が必要）
- 核兵器で爆破する（破片が残る危険性）
- 語彙学習：wipe out, inevitable, hurtle, trajectory, divert, alternative, blow up, drawback など

IELTSリーディング **Chapter2** 文末マッチング問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：文末マッチング問題」は、IELTSアカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「文末マッチング問題」を体系的に練習する教材です。文の前半が提示され、それに続く最も適切な後半を選んで文を完成させる形式です。

主なポイント

- 設問形式：文の前半と後半を結び合わせる
- 解答プロセス：①前半リストからキーワードを拾う → ②パッセージで該当箇所を探す → ③後半リストと照合して解答
- 言い換え表現に注意（例：surname in the conventional sense → family name not

represented）
- 設問順と段落順は一致しない場合があるため冷静に対応する必要がある
- 演習問題では「レオナルドの評判」「名前の由来」「弟子時代」「逸話による名声」「作品の年代順」などを題材に練習

Lesson 19:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、テクノロジーと社会的課題を題材に語彙を学び、現代社会における新しい通貨の仕組みを理解させること、そしてIELTSリーディングの情報特定問題を体系的に練習させることです。「暗号通貨」では、分散化の仕組みと利点・欠点を通じて「テクノロジーと社会的リスクの両立」を考えさせます。「情報特定問題演習」では、与えられた記述がパッセージと一致するかどうかを正しく判断する力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」習慣を身につけることを目指します。例文や演習問題を用いた構造解析を繰り返し行い、学習者に「TRUE / FALSE / NOT GIVEN を正しく判断する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「暗号通貨」）

教材概要

「暗号通貨」は、2009年に登場した新しい資金交換の仕組みを紹介する教材です。最初に考案したのは日本人プログラマーのサトシ・ナカモトとされますが、彼は名声を避けており、実在を疑う批評家もいます。起源は不確かですが、暗号通貨にはいくつかの利点があります。最大の特徴は「分散化」であり、取引は銀行のような一箇所ではなく世界中の多数のコンピュータに「ブロックチェーン」という電子台帳として記録されます。記録作業を行う人々は報酬としてコインを受け取り、分散化によってハッキングに強くなります。また仲介者を排除することで銀行手数料をなくすことができます。一方で欠点も存在します。価格が大幅に変動するため新規参入者は注意が必要です。匿名性が高いため犯罪に利用されることも多く、さらに市場規制が不十分で資金が消失する事例もあり、批評家から「ポンジスキーム」と批判されることもあります。教材では「cryptocurrency（暗号通貨）」「decentralization（分散化）」「ledger（台帳）」「fluctuate widely（大幅に変動する）」「anonymity（匿名性）」などの語彙を学びながら、テクノロジーと社会的課題の両面を考察します。

主なポイント

- 2009年に登場、サトシ・ナカモトが考案した可能性
- 分散化によりブロックチェーンに取引を記録、ハッキングに強い
- 仲介者を排除し銀行手数料を削減
- 欠点：価格変動、犯罪利用、規制不足による資金消失
- 語彙学習：cryptocurrency, decentralization, ledger, upside, downside, anonymity, cautious など

IELTSリーディング **Chapter2** 情報特定問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：情報特定問題」は、IELTSアカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「情報特定問題」を体系的に練習する教材です。与えられた記述がパッセージの内容と「合致する（TRUE）」「矛盾する（FALSE）」「情報がない（NOT GIVEN）」のどれに該当するかを判断します。

主なポイント

- 設問形式：TRUE / FALSE / NOT GIVEN の三択
- 解答プロセス：①記述リストからキーワードを拾う → ②パッセージで該当箇所を探す → ③合致・矛盾・情報なしを判断
- 言い換え表現に注意（例：slang tends not to change → slang constantly evolves）

- 「FALSE」と「NOT GIVEN」の違いを理解することが重要
- 演習問題では「世代間の違い」「ソクラテスの言説」「社会的要因」「俗語」「移民」「テクノロジー」「現代の世代間関係」などを題材に練習

Lesson 20:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、投資詐欺の仕組みを題材に語彙を学び、現代社会における金融リスクを理解させること、そしてIELTSリーディングの筆者の見解／主張特定問題を体系的に練習させることです。「ポンジスキーム」では、詐欺の構造と歴史的事例を通じて「金融リテラシーと批判的思考」を考えさせます。「筆者の見解／主張特定問題演習」では、筆者の立場を正しく読み取る力を養い、学習者が「YES／NO／NOT GIVEN を正しく判断する」習慣を身につけることを目指します。学習者に「筆者の意見を抽出する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「ポンジスキーム」）

教材概要

「ポンジスキーム」は、投資詐欺の代表的な仕組みを紹介する教材です。ポンジスキームとは、新規投資家の資金を使って既存投資家に配当を支払う詐欺であり、合法的な事業活動から利益を生み出すものではありません。新規投資家がいなくなると崩壊する仕組みです。

この詐欺の名前はチャールズ・ポンジ（1882–1949）に由来します。彼はボストンに移民し、地域の人々に「90日で資金を倍増できる」と保証しました。人々は取り残されることを恐れて熱狂し、彼は週に100万ドルを荒稼ぎしました。最新のファッションに身を包み、大邸宅を購入しましたが、不正確な帳簿に地元紙が疑念を抱き、警察が捜査を開始して逮捕されました。ポンジスキームは21世紀にも続いており、バーナード・マドフは信頼できる投資家と見なされていましたが、実際には650億ドルをだまし取る史上最悪のポンジスキームを行いました。

主なポイント

- ポンジスキーム＝新規投資家の資金で既存投資家に配当を支払う詐欺
- チャールズ・ポンジ：90日で資金倍増を保証し、週に100万ドルを荒稼ぎ
- 地元紙が帳簿の不正確さを指摘 → 警察が捜査 → 逮捕
- 21世紀にも存続、バーナード・マドフ事件（650億ドル詐取）
- 語彙学習：scam, dividend, legitimate, collapse, assure, rake in, suspicion, inquiry, endure, trustworthy, infamous など

IELTSリーディング 筆者の見解／主張特定問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：筆者の見解／主張特定問題」は、IELTSアカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「筆者の見解／主張特定問題」を体系的に練習する教材です。与えられた記述がパッセージで述べられている筆者の見解や主張と「合致する（YES）」「矛盾する（NO）」「判断できない（NOT GIVEN）」のどれに該当するかを判断します。

主なポイント

- 設問形式：YES / NO / NOT GIVEN の三択
- 解答プロセス：①記述リストからキーワードを拾う → ②パッセージで該当箇所を探す → ③筆者の見解と照合して解答
- 言い換え表現に注意（例：beneficial → useful, advantageous）
- 「NO」と「NOT GIVEN」の違いを理解することが重要
- 演習問題では「シャンプーの語源」「皮脂の利点」「パラベン除去要求」「泡の有益性」「水系への懸念」「成分の水分量」などを題材に練習

Lesson 21:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、言語習得理論を題材に語彙を学び、言語の本質について考える力を養うこと、そしてIELTSリーディングのサマリー・メモ・表・フローチャート完成問題を体系的に練習させることです。「普遍文法」では、学習説と生得説の対立を通じて「言語の起源と人間の能力」を考えさせます。「サマリー・メモ・表・フローチャート完成問題演習」では、空所に適切な語句を補う力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」「文脈に合う語を選ぶ」習慣を身につけることを目指します。例文や演習問題を用いた構造解析を繰り返し行い、学習者に「文脈から語句を抽出する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「普遍文法」）

教材概要
「普遍文法」は、言語習得に関する二つの主要な理論を比較しながら学習する教材です。ひとつは「言語は学習によって獲得される」という立場で、B.F.スキナーらが提唱しました。彼らは繰り返しによって言語が習得されると考え、この方法は長年にわたり言語教育に大きな影響を与えました。しかし、聴覚障害の子どもが体系的に喃語を発することや、異なる言語が長期間共存する地域で新しい「クレオール語」が独自の語彙を持ちながら共通の文法を形成する事例は、この理論に疑問を投げかけます。もうひとつは「言語は生得的な能力である」という立場です。ノーム・チョムスキーは「普遍文法」の概念を提唱し、人間は生まれながらに言語能力を持ち、動詞と名詞を区別するなどの基本は直観的に理解できると考えました。スティーブン・ピンカーはこの考えを発展させ、言語は本能であり、文明から隔離された人々でも自然に文法を持つ言語を発達させるだろうと推測しました。

主なポイント
- 言語習得理論：学習説 vs 生得説
- スキナー：繰り返しによる学習を提唱
- 反証例：聴覚障害児の体系的な喃語、新しいクレオール語の誕生
- チョムスキー：普遍文法の提唱、生得的な言語能力の存在
- ピンカー：言語は本能であり、隔離された人々でも自然に発達する
- 語彙学習：language acquisition, repetition, creole, lexis, coexist, innate, intuitive, differentiate, speculate など

IELTSリーディング サマリー・表・フローチャート完成問題

教材概要
「IELTSリーディング演習：サマリー・メモ・表・フローチャート完成問題」は、IELTSアカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つで、パッセージの要約やメモ、表、フローチャートの空所を完成させる問題を体系的に練習する教材です。

主なポイント
- 設問形式：空所にパッセージから語句を選んで記入
- 指示に従い「2語以内」「1語のみ」など制限がある
- 解答プロセス：①タイトルや空所前後のキーワードを確認 → ②パッセージで該当箇所を探す → ③文脈と文法的に適合する語句を選択
- 言い換え表現に注意（例：disused → obsolete, wheels → casters）
- 空所の品詞（名詞・動詞・形容詞など）を文脈から予測する
- 演習問題では「スケートボードの歴史」「レオナルド・ダ・ヴィンチの作品」などを題材に練習

Lesson 22:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、食糧危機を題材に語彙を学び、農業と国際的なリスク管理を理解させること、そしてIELTSリーディングの文完成問題を体系的に練習させることです。「バナナ」では、病原菌による食糧危機の歴史と現状を通じて「農業の脆弱性と多様化の必要性」を考えさせます。「文完成問題演習」では、文脈に合う語句を正しく選ぶ力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」「文法的に適合する語を選ぶ」習慣を身につけることを目指します。学習者に「文脈から語句を抽出する」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「バナナ」）

教材概要

「バナナ」は、世界の主要食糧の一つであるバナナが絶滅の危機に瀕している現状を紹介する教材です。栽培バナナの48%を占める「キャベンディッシュ種」が、TR4（Tropical Race 4）と呼ばれる菌により壊滅的な被害を受けています。この病原菌は従来の殺虫剤に免疫があり、現在はアジア・アフリカ・中東の農園に影響を及ぼしています。しかし、旅行者の靴に付着した泥などを介して世界中に蔓延する可能性があり、国際的な危機となり得ます。

この害病は過去にも大惨事を引き起こしました。1840年代のアイルランドではTR1がジャガイモを襲い、100万人が死亡、多くの人々が移民し人口が減少しました。またTR1は「グロスミッチェル」というバナナを絶滅させ、代替として耐性を持つキャベンディッシュが普及しました。現在はそのキャベンディッシュが再び危機に直面しています。

主なポイント

- キャベンディッシュ種バナナがTR4菌により絶滅の危機
- TR4は従来の殺虫剤に免疫があり、アジア・アフリカ・中東で被害拡大
- 国際的な移動により世界中に蔓延する可能性
- 過去の事例：アイルランドのジャガイモ飢饉、グロスミッチェル種バナナの絶滅
- キャベンディッシュはTR1への耐性を持つ代替品種だったが、現在はTR4に脆弱
- 対応策：TR4の検疫、食用バナナの多様化
- 語彙学習：staple, wipe out, fungus, pathogen, pesticide, plantation, blight, quarantine, immune, eradicate, diversify など

IELTSリーディング 文完成問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：文完成問題」は、IELTSアカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「文完成問題」を体系的に練習する教材です。パッセージに基づいて空所を含む文を完成させる形式です。

主なポイント

- 設問形式：空所にパッセージから語句を選んで記入
- 指示に従い「1語のみ」「2語以内」など制限がある
- 解答プロセス：①文全体を読み意味を理解 → ②空所の品詞を予測 → ③パッセージで該当箇所を探す → ④文脈に合う語句を選択
- 言い換え表現に注意（例：disused → obsolete, nerve damage → lost body parts）
- 空所はパッセージの順番通りに出てくるとは限らないため柔軟に対応する必要がある
- 演習問題では「脳波と義肢」「水資源と浄化技術」などを題材に練習

Lesson 23:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、心理学的概念を題材に語彙を学び、集中と生産性の関係を理解させること、そしてIELTSリーディングの制限内語数短答問題を体系的に練習させることです。「フロー」では、集中の条件と企業への影響を通じて「内的動機と成果の関係」を考えさせます。「制限内語数で答える問題演習」では、質問に対してパッセージから適切な語句を抽出する力を養い、学習者が「キーワードを拾う」「言い換えを見抜く」「語数制限に従う」習慣を身につけることを目指します。学習者に「短答形式で正確に答える」習慣を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「フロー」）

教材概要

「フロー」は、人が仕事や活動に没頭し、時間を忘れるほど強い集中を感じる心理状態を紹介する教材です。芸術家が傑作に取り組むときや、ゲーマーがレベルをクリアするときに「in the zone」と呼ばれる状態に入り、睡眠や食事を忘れるほど時間が経つのを意識しなくなることがあります。この「フロー」は仕事の生産性に深い影響を与えるとされています。フローに到達するためには3つの要因があります。①タスクが挑戦的でありながら達成可能であること（圧倒されず習得の可能性があること）、②即座のフィードバックが得られること（上手くできているか、続けるべきかを判断できる）、③活動に没頭し周囲に気付かないほど夢中になることです。企業にとってフローは大きな意味を持ちます。従業員がフローに達すると、外的報酬ではなく仕事そのものに集中し、内的動機を持ち、活動後に満足感を得ます。さらにスキルに熟達し、会社にとてつもなく大きな利益をもたらします。

主なポイント

- フロー＝強い集中と没頭の心理状態
- 例：芸術家の創作、ゲーマーのプレイ
- 到達条件：挑戦的かつ達成可能なタスク／即座のフィードバック／周囲を忘れる没頭感
- 企業への影響：仕事への熱意、内的動機、満足感、スキル熟達、利益増大
- 語彙学習：flow, fervent, concentration, engrossed, mastery, instantaneous feedback, gratification, excel at, tremendous など

IELTSリーディング 制限内語数問題

教材概要

「IELTSリーディング演習：制限内の語数で答える問題」は、IELTSアカデミックリーディングで出題されるタスクタイプの一つ「短答問題」を体系的に練習する教材です。設問に対してパッセージから語句を選び、指定された語数以内で答える形式です。

主なポイント

- 設問形式：質問に対してパッセージから語句を選び、指定語数以内で答える
- 指示に従い「1語のみ」「2語以内」「3語以内」など制限がある
- 解答プロセス：①質問文を読みキーワードを確認 → ②パッセージで該当箇所を探す → ③文脈に合う語句を選択
- 言い換え表現に注意（例：hydrophilic tail → detergent part that interacts with water）
- 質問は5W1H（what, why, who, where, when, how）形式で出題されることが多い
- 演習問題では「洗剤の成分」「SLSの作用」「水中毒素の影響」「シャンプー容器の行き先」「音楽史の事例」などを題材に練習

Lesson 24:

講師へのポイント・サポート内容

この教材では、生徒に「頂点捕食者の役割」と「カスケード効果」という生態学的概念を理解させることが中心となります。主なポイントごとに関連語彙を提示し、例文を通じて文脈での使い方を学ばせることで、単なる暗記ではなく応用力を養うことができます。授業ではまず概要を要約させ、次に語彙を使った意見表現やディスカッションを行うと効果的です。模擬テストは本番形式で時間を区切り、解答根拠を説明させることでリーディング力と試験対応力を強化できます。最終的には「語彙習得 → 内容理解 → 意見表現」の流れを意識させ、IELTSに必要な総合的なスキルを伸ばすことが指導の狙いとなります。

語彙（**IELTS**英単語「イエローストーンのオオカミ」）

教材概要

イエローストーン国立公園では、1930年代に牧場主たちが家畜を守るためにオオカミを駆逐し、絶滅状態となりました。オオカミは頂点捕食者として食物連鎖のバランスを保つ重要な役割を担っていましたが、その不在によってヘラジカの個体数が急増し、植物が食べ尽くされる事態に陥りました。植物の減少は他の草食動物やビーバーなどにも悪影響を及ぼし、生態系全体が脆弱化しました。この問題を解決するため、生態学者たちは32頭のカナダオオカミを再導入する計画を立案しました。当初、地元の牧場主は家畜被害を恐れて強く反対しましたが、研究者たちはオオカミを常時監視する体制を約束し、反対意見を和らげました。オオカミが公園に戻ると、ヘラジカの数は減少し、さらにオオカミに追われて移動を繰り返すようになったため、草原に新しい獣道が形成されました。これにより他の動物も恩恵を受け、ビーバーが再び戻ってダムを築き、地下水位が回復し、魚の産卵環境も改善されました。この一連の変化は「カスケード効果」と呼ばれ、小さな介入が連鎖的に大きな影響を生み出す典型例となりました。オオカミの再導入は、頂点捕食者が生態系の安定性を維持する上で不可欠であることを示す象徴的な事例として、世界中の再野生化プロジェクトの参考になっています。

主なポイント

- フロー＝強い集中と没頭の心理状態
- 例：芸術家の創作、ゲーマーのプレイ
- 到達条件：挑戦的かつ達成可能なタスク／即座のフィードバック／周囲を忘れる没頭感
- 企業への影響：仕事への熱意、内的動機、満足感、スキル熟達、利益増大
- 語彙学習：flow, fervent, concentration, engrossed, mastery, instantaneous feedback, gratification, excel at, tremendous など

IELTSリーディング 模擬テスト

使用教材：

IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分を使用）

- Lesson 1のレベルチェックで使用しなかったパッセージ2つを使用（40分）

模試目的：

本番形式に慣れてもらう

指導の流れ

イントロダクション

- IELTSリーディングの構成説明（2セクション、約27問、40分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施
- 公認問題を使用
- 時間内に27問解答を目指す

自己採点
- 宿題として自己採点を行うことを案内する

フィードバック方法のポイント
- 「時間配分が偏っていませんか？」と問いかける
- スキミング（概要把握）とスキャニング（情報検索）の使い分けを強調

Lesson 25:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、物語の起源を題材に語彙を学び、文化の共通性と人類の歴史を理解させること、そしてIELTSリスニングの構成やトレーニング方法を体系的に学習させることです。「おとぎ話の起源」では、異文化間に共通する物語を通じて「人類の文化的連続性」を考えさせます。「IELTSリスニングテストとは」では、テストの構造と必要な力を理解させ、学習者が「設問の先読み」「言い換えの把握」「トレーニングの組み合わせ」を習慣化することを目指します。学習者に「リスニングの戦略を実践する力」を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「おとぎ話の起源」）

教材概要

「おとぎ話の起源」は、世界各地に伝わる昔話やおとぎ話の起源を探る教材です。従来は16～17世紀に創作され、記録されたものが口承で現代まで伝わったと考えられていました。しかし、19世紀にグリム兄弟が子供向けの話を集めた際、これらの物語はもっと古い可能性があると気づきました。文化的に大きく隔たった地域でも同じ筋書きや登場人物を持つ民間伝承が存在することから、近年の研究では一部の物語が数千年の歴史を持ち、共通の祖先を持つことが確認されています。具体例として、中国の「Fairy　Serpent」は父親が恐ろしい蛇に捕らえられ、解放の代わりに末娘を結婚相手として差し出す物語です。娘と蛇は恋に落ち、蛇は王子に変身します。この話はフランスの「美女と野獣」と同じ筋書きを持ち、ヨーロッパ各地に異なる形で伝わり、4000年以上の歴史があります。もう一つの例はイギリスの「ジャックと豆の木」で、これは「人食い鬼の宝物を盗んだ少年」として分類される物語に由来し、インド・ヨーロッパ語族が分岐した5000年前まで遡ることができます。

主なポイント

- 従来の認識：16～17世紀に創作・記録され、口承で伝承
- グリム兄弟：19世紀に編集し、物語がもっと古い可能性に気づく
- 最近の研究：一部の物語は数千年の歴史を持ち、共通の起源を確認
- 例①：中国「Fairy Serpent」＝フランス「美女と野獣」、4000年以上前から存在
- 例②：イギリス「ジャックと豆の木」＝「人食い鬼の宝物を盗んだ少年」、5000年前まで遡る
- 語彙学習：folklore, millennia, ancestry, recognisable, classify, trace back, split など

IELTSリスニング **Chapter1 IELTS**リスニングテストとは

教材概要

「IELTSリスニングテストとは」は、IELTSリスニングの構成や特徴、必要な力、効果的なトレーニング方法を解説する教材です。テストは4パート構成で、日常的・社会的内容から学術的・教育的内容まで幅広く扱われます。各パートは10問ずつ、合計40問で、所要時間は約40分です。音声は一度しか再生されないため、集中力と持久力が求められます。リスニングでは、設問の先読み時間が与えられ、キーワードを拾って答えを予測する力が重要です。質問は音声の流れに沿って出題されるため、設問を上から順に追えば解答に到達できます。音声にはイギリス英語を中心に、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど多様なアクセントが登場します。特にイギリス英語の表記や発音に慣れる必要があり、語彙力と発音認識力が基盤となります。さらに、リスニングでは言い換え表現が頻繁に登場します。設問に出てくる語がそのまま音声で聞こえるとは限らず、意味を理解して対応する力が問われます。各パート終了後には解答確認時間があり、メモを見直して補強することが可能です。最後に10分間の転記時間が与えられ、スペル・文法・語数制限を守って解答を仕上げます。

主なポイント

- 全40問、約40分（音声30分＋転記10分）
- Part 1〜4：日常会話から学術的講義まで幅広い内容
- 設問の先読み時間あり、質問は音声の順番通りに出題
- アクセントの多様性（英・豪・米・NZ）、イギリス英語中心
- 言い換え表現に注意、意味理解力が必須
- 解答確認時間と転記時間が設けられている

Lesson 26:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、動物行動を題材に語彙を学び、科学的検証の重要性を理解させること、そしてIELTSリスニングの選択式タスクタイプを体系的に練習させることです。「日本ザルと温泉」では、自然行動とストレス軽減の関係を通じて「科学的思考と観察力」を養います。「タスクタイプ別演習 Type　1〜3」では、設問形式ごとの攻略法を学び、学習者が「先読み」「言い換え認識」「図表理解」を習慣化することを目指します。例題を用いて「設問先読み練習」「選択肢の言い換え確認」「図表の対応付け」を繰り返し行い、学習者に実践的な戦略を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「日本ザルと温泉」）

教材概要

「日本ザルと温泉」は、長風呂をする唯一の非人間霊長類である「スノーモンキー」の行動を紹介する教材です。初めての事例は1963年、地獄谷で若い雌ザルが露天風呂に入っているのを目撃されたことでした。その後、他のサルもこの行動を真似し、衛生上の理由からホテルがサル専用の温泉を設けました。この現象は観光名所となりましたが、2018年までその効能は科学的に検証されていませんでした。京都大学の研究者は、温泉が単なる防寒手段ではなく、繁殖期にボス雌ザルがストレスを軽減するためにも利用されていることを発見しました。温泉に入ることでストレスホルモンが大幅に低下し、攻撃性や争いが和らぎました。さらに、観光客が1日最大500人訪れて写真を撮っても、サルのストレスは増加せず、彼らは観光客を無視して寛ぐことに集中していました。

主なポイント

- 日本ザル＝温泉に入る唯一の非人間霊長類
- 初事例：1963年、地獄谷で雌ザルが入浴 → 専用温泉設置
- 観光名所化、2018年まで効能未検証
- 京都大学の研究：温泉は防寒だけでなく繁殖期のストレス軽減にも利用
- 温泉入浴でストレスホルモンが低下、攻撃性や争いが緩和
- 観光客の存在はストレス増加につながらず、サルはリラックスに集中
- 語彙学習：primate, mimic, incidence, hygienic, phenomenon, validate, alleviate stress, aggressive, conflict, significantly など

IELTSリスニング タスクタイプ別演習（**Type1〜3**）

教材概要

「IELTSリスニング演習：タスクタイプ別演習（Type 1〜3）」は、IELTSリスニングで出題される選択式タスクタイプを体系的に練習する教材です。多項選択問題、マッチング問題、ラベリング問題を扱い、設問の先読みから音声の聞き取り、解答確認、転記までの流れを実践的に学びます。

主なポイント

- Type 1 多項選択問題：複数の選択肢から正しいものを選ぶ（例：3択1問、5択2問）
- Type 2 マッチング問題：ボックス内の情報と質問を対応させる（言い換え表現に注意）
- Type 3 ラベリング問題：地図や図面の空所を音声情報に基づいて完成させる
- 解答プロセス：①設問先読み → ②音声聞き取り → ③解答確認 → ④転記
- 注意点：言い換え表現に惑わされない／設問の順番通りに情報が登場する／聞き逃しても引きずらない

Lesson 27:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、日本文化遺産を題材に語彙を学び、歴史的建造物の価値を理解させること、そしてIELTSリスニングの記述式タスクタイプを体系的に練習させることです。「法隆寺」では、文化遺産の歴史と科学的検証を通じて「歴史的事実とその裏付け」を考えさせます。「タスクタイプ別演習 Type 4〜6」では、設問形式ごとの攻略法を学び、学習者が「語数制限遵守」「言い換え認識」「文法的適合」を習慣化することを目指します。例題を用いて「設問先読み練習」「空所補完の正確性確認」「転記の正確性チェック」を繰り返し行い、学習者に実践的な戦略を定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「法隆寺」）

教材概要

「法隆寺」は、日本の奈良にある世界最古級の木造建築を紹介する教材です。607年に聖徳太子が病気回復後、亡き父と薬師如来を祀るために建立した寺院で、1400年以上にわたり僧院としての役割を果たしてきました。1993年には世界遺産に登録され、奈良の仏教文化を象徴する存在となっています。現在の法隆寺は西院と東院の二つの区画から成り立っています。西院には五重塔があり、世界最古の木造建造物として広く認められています。内部には入れず、外観の美しさで人々に感銘を与える目的で設計されました。東院には「夢殿」があり、装飾を施された建物に聖徳太子像が安置されています。この像は一年の特定の時期にのみ公開されます。しかし1939年の発掘調査により、これらの建物は670年の火災後に再建されたことが判明しました。さらに近年の年輪年代測定法による木材分析は、現在の建物が原初のものではないことを裏付けています。

主なポイント

- 607年、聖徳太子が建立
- 父と薬師如来を祀る目的で創建
- 1400年以上僧院として継続、1993年世界遺産登録
- 西院：五重塔（世界最古の木造建築、外観美を目的）
- 東院：夢殿（聖徳太子像を安置、限定公開）
- 1939年の発掘調査と年輪年代測定法により再建の証拠が確認
- 語彙学習：revere, commission, monastery, pagoda, ornate, excavation, dendrochronology, timber, conclusive evidence など

IELTSリスニング タスクタイプ別演習（**Type4〜6**）

教材概要

「IELTSリスニング演習：タスクタイプ別演習（Type 4〜6）」は、IELTSリスニングで出題される記述式タスクタイプを体系的に練習する教材です。メモ完成問題、表・フローチャート・要約完成問題、文完成・ショートアンサー問題を扱い、設問先読みから音声聞き取り、解答確認、転記までの流れを実践的に学びます。

主なポイント

- Type 4 メモ完成問題：会話やモノローグの内容をメモ形式で補完する
- Type 5 表・フローチャート・要約完成問題：表や要約の空所を埋める（言い換え表現に注意）
- Type 6 文完成・ショートアンサー問題：文の空所を埋める／質問に短答する形式
- 解答プロセス：①設問先読み → ②音声聞き取り → ③解答確認 → ④転記
- 注意点：語数制限を守る／言い換え表現を見抜く／文法的に正しい形で答える

Lesson 28:

講師へのポイント・サポート内容

この教材では、行動経済学の「基準点効果」を理解させることと、IELTSリスニング模擬テストを本番形式で体験させることを組み合わせています。模擬テストをそのままリスニング演習として実施し、設問の解答根拠を確認させることで、試験対応力を高めます。

語彙（**IELTS**英単語「行動経済学」）

教材概要

「行動経済学」は、近年の不況にもかかわらず、船旅会社は大幅な利益を上げています。その理由は「基準点（reference points）」を利用して顧客の消費行動を操作しているからです。人は価格を絶対値ではなく比較で理解するため、最初に高額な出費をすると、その後の追加購入が安く感じられます。これは古典派経済学の「人は合理的に金銭を判断する」という理論に矛盾し、心理学と経済学を融合した行動経済学が説明する現象です。船旅会社は予約時に飲み物パッケージなどを追加購入させ、乗船後は基準点が高く設定されるため、船内の買い物が安く感じられ、結果的に消費が増加します。この手法により、ある会社は2014年以降利益を倍増させました。

主なポイント

- 基準点の効果：人は価格を絶対値ではなく比較で理解する。
- 古典派経済学との矛盾：合理的判断という従来理論に反し、感情や比較が消費行動を左右する。
- 行動経済学の台頭：心理学と経済学を融合した新しい理論が注目されている。
- 船旅会社の戦略：予約時に追加購入を促し、基準点を高く設定して船内消費を増やす。
- 利益の増加：この戦略により、ある会社は2014年以降利益を倍増させた。

IELTSリスニング 模擬テスト

使用教材：
実践IELTS　技能別問題集　リスニング

- Chapter 3 模擬テストの Test1を使用

模試目的：
本番形式に慣れてもらう

指導の流れ
イントロダクション

- IELTSリスニングの構成説明（4セクション、約40問、30分＋転記10分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施

- 公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
- 各セクションの音声を一度のみ再生

解答転記

- 答えをアンサーシートに記入
- 本番同様の練習

自己採点
- 宿題として自己採点を行うことを案内する

フィードバック方法のポイント
- 個別に「なぜ聞き取れなかったか」を確認
- 聞き取り戦略（予測、キーワード把握）を強調

Lesson 29: リスニングとリーディングの簡易模試（講師用）

使用教材：IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問を使用（レベルチェックで使った内容と違う範囲を選択）

レッスン目的

IELTSブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題集を用いた模擬試験を実施します。試験時間は合計60分で、まずリスニング試験を40分間行い、その後リーディング試験を20分間行います。リスニングは本番同様に4セクションを通して音声を一度だけ再生し、途中で区切りを設けずに通しで実施してください。終了後は答案を回収せず、そのままリーディング試験へ移行します。リーディングでは1パッセージのみを使用し、制限時間20分を厳守してください。試験終了後に答案を回収し、採点とフィードバックの準備を行います。指導の際には、生徒に「一度しか聞けないリスニングの緊張感」と「限られた時間で要点を掴むリーディングの練習」を意識させることが重要です。採点後は各生徒に三文程度の具体的なアドバイスを渡すことで、学習効果を高めることができます。

指導の流れ

開始前
・ 生徒に試験概要と注意事項を説明
・ 答案用紙を配布

リスニング試験（**40**分）
・ 音声を一度のみ再生
・ セクションごとに区切りは設けず、通しで実施
・ 終了後すぐに答案を回収せず、リーディングへ移行

リーディング試験（**20**分）
・ 1パッセージのみを使用
・ 時間管理を厳守し、終了時に答案を回収

終了後
・ 答案を回収し、採点・フィードバックを準備
・ 生徒には「時間配分」「設問形式への慣れ」を重点的に振り返らせる

Lesson 29: リスニングとリーディングの簡易模試（生徒用）

試験案内

試験の目的・案内
本日は、IELTSブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題集を使用した模擬試験を実施します。試験は合計60分で構成され、まず40分間のリスニング試験を行い、その後20分間のリーディング試験を行います。リスニング試験では本番同様に4つのセクションを通して音声を一度だけ再生しますので、集中して聞き取り、答案用紙に記入してください。続いて行うリーディング試験では、1つのパッセージを用いて設問に回答します。制限時間は20分ですので、時間配分に注意しながら取り組みましょう。試験中は辞書や参考書の使用は禁止されており、終了後に答案を回収します。今回の模擬試験は、本番形式に慣れること、時間管理の練習をすること、そして自分の弱点を確認することを目的としています。落ち着いて取り組み、今後の学習に役立ててください。

試験の流れ：

リスニング試験：**40**分
・ 本番同様、4セクション構成
・ 各セクション終了後に次の問題へ自動的に進みます

リーディング試験：**20**分
・ 1パッセージのみを使用
・ 本番形式に準じた設問に回答

注意事項
・ 試験中は辞書・参考書の使用は禁止です。
・ リスニングでは録音音声を一度のみ再生します。集中して聞き取りましょう。
・ リーディングは制限時間20分で必ず終了します。時間配分に注意してください。
・ 答案は試験終了後に回収します。

Lesson 30:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的事例を題材に語彙を学び、気候変動への教訓を理解させること、そしてIELTSライティングの構造と採点基準を体系的に学習させることです。「エジプト王国の滅亡」では、古代文明の滅亡要因を通じて「環境変動と社会の持続可能性」を考えさせます。「IELTS Writing Introduction」では、ライティングの基本構成と採点基準を理解させ、学習者が「客観的に描写する」「論理的に展開する」「パラフレーズを活用する」習慣を身につけることです。例題を用いて「Task 1のグラフ描写練習」「Task 2の意見展開練習」「パラフレーズ演習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストやライティング攻略のまとめ資料を提供し、準備します。

語彙（**IELTS**英単語「エジプト王国の滅亡」）

教材概要

「エジプト王国の滅亡」は、後期青銅器時代末期にエジプト帝国が干ばつの影響で崩壊した経緯を紹介する教材です。2008年以来、エジプト学者の間では干ばつが滅亡の主要因であることが常識となっています。しかし、ナイル川の堆積物に埋まっていた化石化した花粉の調査から、ファラオたちが降水不足による問題を回避しようとした努力が明らかになりました。彼らは肥沃な地域で作物の収穫高を増やし、余剰の穀物を周辺地域に供給しました。特に、征服したばかりのヒッタイト王国に救援活動を行い、国境での混乱を防ごうとしました。また、乾燥に強いウシ科の頑丈な種と交配し、干ばつに耐性のある家畜を育てました。こうした先見性にもかかわらず、帝国は50年後に滅亡しました。教材はこの歴史的事例を通じて、現代社会も気候変動（海面上昇など）に直面していることを示し、その影響を軽減する必要性を強調しています。

主なポイント

- 後期青銅器時代末期、干ばつが主要因で滅亡
- 花粉分析からファラオの対策が判明
- 穀物収穫高を増やし、余剰を周辺地域に供給
- ヒッタイト王国への救援活動＝国境の混乱回避策
- 乾燥に強い牛種との交配で家畜を改良
- 先見性があったが帝国は50年後に崩壊
- 現代社会への教訓：気候変動の影響を軽減する必要性
- 語彙学習：perish, deduce, ward off, precipitation, yield, surplus, relief effort, chaos, bovine, resilient, mitigate など

IELTSライティング **Introduction**

教材概要

「IELTS Writing Introduction」は、IELTSライティングテストの概要と高得点を取るための基本戦略を解説する教材です。IELTSはライティング、リーディング、リスニング、スピーキングの4技能を測定する試験で、ライティングはTask 1（グラフや表の描写、150語以上）とTask 2（テーマに対する意見、250語以上）の2問構成です。Task 1では、グラフや表、地図、プロセス図を客観的に描写する力が求められます。導入（Introduction）で指示文をパラフレーズし、全体の特徴を簡潔にまとめた後、本論（Body 1・Body 2）で大きな違いと小さな違いを整理し、結論（Conclusion）で全体を再度まとめます。Task 2では、与えられたテーマに対して論理的に意見を展開し、導入で背景と主題文を提示し、本論で主張と根拠を展開し、結論で要点をまとめ未来の展望を述べます。ライティングの採点基準は「課題達成度」「一貫性とまとまり」「語彙力」「文法知識と正確さ」の4つです。課

題達成度では指示文に正しく答えること、一貫性では論理的な構成と接続表現の使用、語彙力では適切な語彙とパラフレーズ、文法では複文や受動態などの正確な使用が評価されます。加えて、ライティングでは「客観性」「構成」「主張」「シンプルさ」「適切な言語使用」の鉄則を守る必要があります。これらを意識することで、学習者はIELTSライティングで安定して高得点を獲得できる力を養うことができます。

主なポイント

- IELTSは4技能を測定する試験、バンドスコアは1.0〜9.0で評価
- Task 1：グラフや表を客観的に描写（導入・本論・結論の構成）
- Task 2：テーマに対する意見を論理的に展開（導入・本論・結論）
- 採点基準：課題達成度、一貫性とまとまり、語彙力、文法知識と正確さ
- 鉄則：客観性、構成、主張、シンプルさ、適切な言語使用
- パラフレーズ技術の重要性（類義語、名詞化、翻訳などを活用）

Lesson 31:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、未来技術を題材に語彙を学び、科学的想像力を養うこと、そしてIELTSライティングTask　1の折れ線グラフ問題を通じて「客観的な描写力」と「構成力」を身につけさせることです。「ナノボット」では、誤情報と科学的可能性を比較しながら「技術の影響と倫理的課題」を考えさせます。「Task 1 折れ線グラフ」では、導入・本論・結論の構成を徹底させ、学習者が「パラフレーズ」「数値の比較」「客観的表現」を習慣化することを目指します。例題を用いて「グラフの変化を客観的に描写する練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「ナノボット」）

教材概要

「ナノボット」は、極小の機械であるナノボットの可能性と誤解について解説する教材です。ナノボットは私たちの生活を一変させる潜在力を持ち、一部の批評家は人間に取って代わると主張しています。しかし、キルスイッチのような安全装置によって危険性は軽減されると考えられています。この技術には多様な応用が期待されています。2018年には、ナノボットが単一のがん性細胞に薬を正確に届けることに成功しました。これにより、過剰投薬の副作用を避けつつ、患者ごとに合わせた治療法の開発が可能になります。将来的には、耐久性がありながら安価なロケット資材を大量生産し、宇宙旅行を誰もが手の届く価格にすることができると予測されています。さらに、角砂糖ほどの大きさの太陽電池で都市全体に電力を供給し、化石燃料とその汚染を不要にする可能性もあります。また、空気中を飛行するナノボットが大気汚染物質を除去し、農業用ロボットが少量の水と肥料で効率的に作物を育てることで飢餓を過去のものにする未来像も描かれています。最終的には、血液中のナノボットが細胞を若返らせ、損傷を修復することで人間が永遠に生きられる可能性すら示されています。

主なポイント

- 誤情報が多いが、安全装置で危険性を軽減可能
- 2018年：がん性細胞への薬剤投与に成功
- 過剰投薬の副作用を避けた個別医療の可能性
- 宇宙旅行を安価にする資材の大量生産
- 小型太陽電池で都市全体に電力供給、化石燃料不要化
- 大気汚染物質の除去、効率的農業による飢餓解消
- 血液中で細胞を修復・若返らせる応用可能性
- 語彙学習：misinformation, minuscule, upend, safeguard, mitigate, precision, tailor-made, durable, affordable, rejuvenate など

IELTSライティング **Task1** 折れ線グラフ

教材概要

「IELTS Writing Task 1 折れ線グラフの問題」は、グラフ描写型のライティング問題を扱う教材です。折れ線グラフを題材に、導入・本論・結論の構成を学び、客観的に情報を整理して描写する練習を行います。Task 1では、個人的な感想や評価を避け、グラフや図表から読み取れる情報のみを描写することが求められます。語数は150語以上が必須で、理想的には160～200語程度が望ましいとされています。導入では指示文をパラフレーズし、全体の傾向を簡潔にまとめます。本論1では大きな変化を、本論2では細かい変化を整理し、結論で全体を再度まとめます。折れ線グラフの問題では、時系列の変化を正確に描写する力が重要です。例えば「fall gradually」「reach a peak」「fluctuate repeatedly」などの表現を使い分けることで、数値の動きを客観的に示すことが

できます。さらに、同じ数値を繰り返し書くのではなく、顕著な変化を抽出して比較することが高得点につながります。結論では、季節ごとの変化が見られる製品とそうでない製品を区別し、全体的な傾向を客観的にまとめることが求められます。

主なポイント

- Task 1心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150語以上（理想は160〜200語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論1：大きな変化をまとめる（例：ビスケットの売上減少、ロリポップの上昇）
- 本論2：細かい変化をまとめる（例：ジェリービーンズは安定、チョコレートは低収益で変動）
- 結論：全体を再度まとめ、季節変化の有無を客観的に示す
- 使用表現例：fall gradually, reach a peak, fluctuate repeatedly, remain stable, a noticeable trend など

Lesson 32:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的事例を通じて「情報格差」の概念を理解させ、現代社会におけるデジタルリテラシーの重要性を考えさせること、そしてIELTSライティングTask 1 円グラフ問題を通じて「比較表現」と「客観的描写力」を習得させることです。「情報格差」では、鉄道とインターネットの比喩を用いて「アクセスの有無が社会に与える影響」を考えさせます。「Task 1 円グラフ」では、性別による違いを客観的に比較し、学習者が「パラフレーズ」「割合表現」「比較のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「円グラフの比較描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「情報格差」）

教材概要

「情報格差」は、鉄道の歴史的事例を通じて現代のインターネット格差を考察する教材です。1873年、ユニオン・パシフィック鉄道がニューヨークからカリフォルニアまでを結び、大陸横断の旅は数か月から数日に短縮されました。このとき「オンライン」（鉄道路線上）と「オフライン」（鉄道路線外）という区別が生まれ、都市や人々の繁栄に大きな影響を与えました。鉄道に接続された地域は仕事や都市へのアクセスが可能となり繁栄しましたが、接続されなかった町は取り残され、衰退していきました。この比喩は現代のインターネットにも適用できます。今日では「オンライン」である人々と「オフライン」である人々の間に「デジタル・ディバイド（情報格差）」が存在します。インターネットの基盤は安定しているものの、デジタルリテラシーの不平等によって格差は拡大しています。例えば裕福な国でも、一部の貧困層はソーシャルメディアや就職アプリを効果的に使えず、結果として所得格差が悪化します。これを逆転させるため、国連は主要なNGOと協力し、若者にインターネット活用の訓練を行っています。

主なポイント

- 1873年：鉄道接続により「オンライン」と「オフライン」の区別が誕生
- 接続地域は繁栄、非接続地域は衰退
- 現代の比喩：インターネット利用者と非利用者の間の「デジタル格差」
- デジタルリテラシーの不平等が格差拡大の要因
- 貧困層は就職や情報活用に不利 → 所得格差悪化
- 国連とNGOが若者にインターネット活用訓練を実施
- 語彙学習：transcontinental, carriage, repercussion, metaphor, metropolitan area, digital literacy, income inequality, bridge the gap など

IELTSライティング **Task1** 円グラフ

教材概要

「IELTS Writing Task 1 円グラフの問題」は、円グラフを題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。男女別のサンドイッチ注文割合を示す円グラフを分析し、導入・本論・結論の構成を学びます。Task 1では、指示文をパラフレーズし、全体の傾向を簡潔にまとめることが重要です。本論1では大きな違いを、本論2では細かい違いを描写し、結論で全体を再度整理します。例えば、男性ではDouble Bacon Sandwichが最も人気である一方、女性ではVeggie Sandwichが圧倒的に人気というように、性別による顕著な違いを比較します。Chicken and Egg SandwichやGrilled Cheese Sandwichは男性にやや人気が高く、Tuna Sandwichは男女ともに同じ割合で注文されるなど、細かい違いも客観的に示します。さらに、円グラフ問題では「differ greatly」「equally popular」「by far the most popular」などの表現を使い分けることで、比較の精度を高め

ることができます。割合の表現（percentage, proportion, ratio）を適切に使い分けることも高得点につながります。

主なポイント
- Task 1心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150語以上（理想は160〜200語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論1：大きな違いをまとめる（例：男性＝Double Bacon、女性＝Veggie）
- 本論2：細かい違いをまとめる（例：Chicken & Egg、Grilled Cheeseは男性にやや人気、Tunaは男女同等）
- 結論：全体を再度まとめ、顕著な違いとそうでない部分を区別
- 使用表現例：differ greatly, in contrast, equally popular, nearly half, by far the most popular など

Lesson 33:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、文化的背景を題材に語彙を学び、社会的要因と成功の関係を理解させること、そしてIELTSライティングTask 1棒グラフ問題を通じて「数値比較」と「客観的描写力」を習得させることです。「スウェーデンと音楽」では、教育・言語・文化的特性が音楽成功にどう寄与するかを考えさせます。「Task　1　棒グラフ」では、数値の大小を整理し、学習者が「パラフレーズ」「割合表現」「比較のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「棒グラフの数値比較描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「スウェーデンと音楽」）

教材概要

「スウェーデンと音楽」は、国際的な音楽業界でスウェーデンが突出した存在である理由を解説する教材です。何十年にもわたり多くのスウェーデン人アーティストが世界的に成功しており、その背景には教育制度、言語能力、人口集中、文化的特性など複数の要因があります。まず教育制度では、人文科学を重視し、音楽が必修科目として組み込まれています。さらに、若者の約3分の1が助成金を受けた放課後音楽プログラムに参加しており、自然に音楽活動へと進む環境が整っています。次に、スウェーデン人の約89%が英語を流暢に話せるため、英語で歌詞を作成する際に自信を持てる点が国際的成功につながっています。また、人口が都市部に集中しているため、音楽家同士が近接して活動できる環境があり、ビジネスクラスターの効果として創造性や生産性が高まります。さらに、スウェーデン人は「早期導入者」として知られ、海外からの新しい流行や技術を迅速に受け入れ、改良する文化的特性を持っています。これらの要因が組み合わさり、スウェーデンは音楽界における「パワーハウス」となっています。

主なポイント

- 教育制度：音楽が必修科目、放課後プログラムの助成制度
- 英語力：国民の約89%が流暢に英語を話す
- 人口集中：都市部で音楽家同士が近接 → クラスター効果
- 文化的特性：新しい流行や技術を迅速に受け入れ、改良する姿勢
- 語彙学習：inordinate, compulsory, component, pool of talent, empirical evidence, early adopters, improve upon など

IELTSライティング **Task1** 棒グラフ

教材概要

「IELTS Writing Task 1 棒グラフの問題」は、棒グラフを題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。小学校1年生のクラスにおけるペット所有状況を示す棒グラフを分析し、導入・本論・結論の構成を学びます。Task 1では、指示文をパラフレーズし、全体の傾向を簡潔にまとめることが重要です。本論1では数値の大きいもの（犬・猫）を、本論2では数値の小さいもの（魚・鳥・モルモット・ペットなし）を整理し、結論で全体を再度まとめます。例えば、犬が最も人気で13人が飼っている、猫が次に人気で10人が飼っているなど、具体的な数値を挙げながら比較します。魚や鳥は中程度の人気、モルモットは最も少なく、ペットを飼っていない生徒は1人のみという点も客観的に描写します。さらに、棒グラフ問題では「account　for」「come　in　fourth」「approximately two　thirds」などの表現を使い分けることで、数値の動きを正確に示すことができます。人気の差を客観的に比較し、全体的な傾向をまとめることが高得点につながります。

主なポイント

- Task 1心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150語以上（理想は160〜200語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論1：数値の大きいものをまとめる（犬・猫）
- 本論2：数値の小さいものをまとめる（魚・鳥・モルモット・ペットなし）
- 結論：全体を再度まとめ、人気の差を客観的に示す
- 使用表現例：account for, by far the most popular, come in fourth, differ greatly, in summary など

Lesson 34:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、日本の耐震建築を題材に語彙を学び、技術革新と規制の関係を理解させること、そしてIELTSライティングTask 1表問題を通じて「数値比較」と「客観的描写力」を習得させることです。「日本建築の耐震性」では、建築技術と文化的背景が耐震性にどう寄与するかを考えさせます。「Task　1　表の問題」では、教科ごとの学習時間を比較し、学習者が「パラフレーズ」「数値表現」「比較のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「表の数値比較描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「日本建築の耐震性」）

教材概要

「日本建築の耐震性」は、日本の高層建築が世界でも最前線に立ち、強い地震活動に耐えうる設計を持つことを解説する教材です。耐震建築と見なされるためには、建物が地震の際に前後にむち打たないほど硬く、しかし揺れに合わせて十分に柔軟である必要があります。例えば東京都心の森ビルには、オイルに浸された炭素棒が組み込まれており、横揺れを吸収して建物への衝撃を弱めます。さらに、世界有数の高さを誇る東京スカイツリーは、木の根をモデルにした深い地下基盤によって安定性を確保しています。加えて、日本の伝統的な塔（五重塔など）を参考に設計され、中心柱（心柱）が錘の役割を果たし、建物全体が前後に動かないように工夫されています。これらの革新は、過去の地震被害を踏まえて政府が建築規制を改正し、厳格化してきた成果です。例えば1981年の地震後には、鉄筋コンクリート造りの梁を全ての高層建築に義務化する法律が制定されました。

主なポイント

- 日本は耐震建築の最前線にある
- 高層ビルは「硬さ」と「柔軟さ」の両立が必要
- 森ビル：炭素棒をオイルに浸し横揺れを吸収
- 東京スカイツリー：木の根をモデルにした基盤＋心柱による安定性
- 日本の塔（五重塔）は地震で倒壊したことがない → 設計の参考に
- 政府の建築規制：地震ごとに改正・厳格化、1981年以降は鉄筋コンクリート梁が義務化
- 語彙学習：forefront, withstand, seismic activity, whip, sway, carbon rod, submerge, jolt, pagoda, central column, edifice, regulation, revise, stringent, mandatory など

IELTSライティング **Task1** 表の問題

教材概要

「IELTS Writing Task 1 表の問題」は、表を題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。中国・韓国・日本・台湾の15歳の生徒が、数学・理科・英語・歴史を週に何時間学んでいるかを比較する表を分析します。Task 1では、指示文をパラフレーズし、全体の傾向を簡潔にまとめることが重要です。本論1では比較的差が大きい教科（英語・数学）を、本論2では差が小さい教科（理科・歴史）を整理し、結論で全体を再度まとめます。例えば、韓国は英語に最も多くの時間を割き（週12時間）、日本は最も少なく（週7時間）学んでいる一方で、数学は日本が最多（週8時間）であるなど、具体的な数値を挙げながら比較します。理科は韓国と台湾が週6時間、中国が3時間と差が小さく、歴史は各国で週2〜4時間とほぼ均等に重視されています。さらに、表問題では「take the lead」「on the other hand」「slight difference」「as an overall trend」などの表現を使い分けることで、比較の精度を高めることができます。全体的な傾向を客観的にまとめることが高得点につながります。

主なポイント

- Task 1心得：感想や評価を避け、表から読み取れる情報のみを描写
- 語数：150語以上（理想は160〜200語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論1：差が大きい教科（英語・数学）を比較
- 本論2：差が小さい教科（理科・歴史）を比較
- 結論：全体を再度まとめ、顕著な違いと均等な部分を区別
- 使用表現例：take the lead, on the other hand, slight difference, as shown in the table, in summary など

Lesson 35:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、友人関係と脳活動の研究を題材に語彙を学び、人間関係の進化的背景を理解させること、そしてIELTSライティングTask 1 地図問題を通じて「変化の描写」と「客観的表現力」を習得させることです。「親しい友人と脳の働き」では、科学的研究と進化論的背景を結びつけて「社会的絆の重要性」を考えさせます。「Task 1 地図の問題」では、過去と現在の比較を通じて学習者が「パラフレーズ」「位置表現」「変化のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「地図の変化描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「新しい友人と脳の働き」）

教材概要

「親しい友人と脳の働き」は、友人同士の脳活動の共通性に関する最新研究を紹介する教材です。カリフォルニア大学の調査では、被験者に珍しい音楽ビデオや退屈な結婚披露宴など様々な短い動画を見せ、脳波の反応を比較しました。その結果、単なる顔見知りの人々は異なる神経パターンを示したのに対し、親しい友人同士は興奮から退屈まで同じ盛衰を示しました。これは、共通経験が同じ反応を呼び起こすという説を裏付けています。さらに、この同調した脳活動は健康面でも有益であり、認知症の症状が少なく寿命が延びることと関連していることが偶然発見されました。研究者は、こうした「気が合うこと」が人類の進化過程で発達したと考えています。狩猟採集社会では、男性が大きな獲物を狩る際に迅速に意見を一致させる必要があり、同じ反応を持つことが進化上の利点でした。同様に、女性同士も同じ考え方を共有することで強い社会的絆を築き、母親が亡くなった場合には他の女性が子孫を育てる仕組みが形成されました。

主なポイント

- 親しい友人同士は脳波の反応が一致する
- 共通経験が同じ神経反応を呼び起こす
- 同調した脳活動は寿命延長や認知症予防に関連
- 狩猟採集社会で同じ反応を持つことが進化上の利点
- 女性同士の絆が子孫の養育を保証した
- 語彙学習：chemistry, brain wave, stimuli, neural, synchronised, dementia, like-mindedness, hunter-gatherer society, offspring など

IELTSライティング **Task1** 地図の問題

教材概要

「IELTS Writing Task 1 地図の問題」は、地図を題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。1995年と現在の町の地図を比較し、導入・本論・結論の構成を学びます。

Task 1では、指示文をパラフレーズし、全体の変化を簡潔にまとめることが重要です。本論1では北部の変化（漁港の消失、市場のホテル化、新しいショッピング街の建設）、本論2では南部の変化（公園がゴルフコースに転換、住宅やアパートの増加、農地が公園と学校に変化）を整理します。結論では、町が小さな郊外の海辺の町から繁栄する都市へと再開発されたことを客観的にまとめます。さらに、地図問題では「replace」「transform」「used to be」「no longer exist」などの表現を使い分けることで、変化を正確に示すことができます。方位表現（north, south, east, west）や「in the centre」「coastal area」などの位置表現も重要です。

主なポイント

- Task 1心得：感想や評価を避け、地図から読み取れる情報のみを描写
- 語数：150語以上（理想は160〜200語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の描写
- 本論1：北部の変化（漁港→消失、市場→ホテル、ショッピング街建設）
- 本論2：南部の変化（公園→ゴルフコース、住宅増加、農地→公園と学校）
- 結論：町全体が再開発され、居住者や訪問者を受け入れる都市へ発展
- 使用表現例：replace, transform, used to be, no longer exist, coastal area, residential housing, newly created road など

Lesson 36:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、現代社会のビジネス事例を題材に語彙を学び、プライバシーやアイデンティティの問題を考えさせること、そしてIELTSライティングTask1　ダイアグラム問題を通じて「プロセスの描写」と「客観的表現力」を習得させることです。「先祖調査ビジネス」では、便利さと危険性を比較しながら「技術と倫理の関係」を考えさせます。「Task 1 ダイアグラムの問題」では、開始から終了までの流れを整理し、学習者が「パラフレーズ」「順序表現」「受動態」を習慣化することを目指します。例題を用い「ダイアグラムの流れ描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「先祖調査ビジネス」）

教材概要

「先祖調査ビジネス」は、近年急成長している家系図調査産業を題材にした教材です。ここ数十年で先祖を辿るビジネスは数十億ドル規模の産業に成長しました。人々が自分の家系を調べる動機には、グローバル化した社会でアイデンティティを形成する必要性があります。国際化が進む中で、自分が誰であるかを理解するために家族の歴史を追跡する人が増えています。このビジネスは便利で、主にインターネット上で完結します。例えば、あるウェブサイトは160億以上の記録を保持しており、個人情報を送るだけで家系図を発行してくれます。別の会社では唾液サンプルを提出するだけでDNAを数千年遡り、先祖を明らかにすることが可能です。さらにDNA情報を用いて、家族に遺伝する病気にかかりやすいかどうかを予測することもできます。一方で、プライバシー擁護者は巨大なデータベースに懸念を示しています。将来的には、生物学的情報が「マウスをクリックするだけ」で入手可能になる危険性が指摘されています。

主なポイント

- 急成長する家系図調査産業は数十億ドル規模
- アイデンティティ形成の手段として家系図が注目されている
- インターネットで簡便に利用可能、膨大な記録を保持するサイトも存在
- 唾液サンプルでDNAを遡り、先祖や遺伝的疾病リスクを特定可能
- プライバシー問題：巨大データベースへの懸念、情報流出の危険性
- 語彙学習：burgeoning, genealogy, ancestor, saliva, biological information, susceptible, raise concerns, accessible, at the click of a mouse など

IELTSライティング **Task1** ダイアグラムの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 1 ダイアグラムの問題」は、プロセス図やフローチャートを題材に情報を客観的に描写する練習を行う教材です。ダイアグラム問題では、物質や製品の製造過程、自然現象の流れ、作業手順などを説明する力が求められます。Task　1では、指示文をパラフレーズし、全体の流れを簡潔にまとめることが重要です。本論1では主要なステップを、本論2では補助的なステップを整理し、結論で全体を再度まとめます。例えば「水の循環」や「コーヒー豆の加工過程」などのダイアグラムでは、開始点から終了点までを時系列で説明し、因果関係を明確にします。さらに、ダイアグラム問題では「first」「next」「then」「finally」などの順序表現を使い分けることで、流れを正確に示すことができます。受動態や現在完了形を用いて客観的に描写することも高得点につながります。

主なポイント

- Task 1心得：感想や評価を避け、ダイアグラムから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150語以上（理想は160〜200語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の流れの描写
- 本論1：主要なステップを時系列で説明
- 本論2：補助的なステップや詳細を補足
- 結論：全体を再度まとめ、プロセスの意義を客観的に示す
- 使用表現例：first, next, then, finally, be processed, be transformed, undergo changes, result in, lead to など

Lesson 37:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、医学研究を題材に語彙を学び、知性と認知症リスクの関係を理解させること、そしてIELTSライティングTask　1　2つのグラフの組み合わせた問題を通じて「相関関係の描写」と「客観的表現力」を習得させることです。「アルツハイマー病と修道女」では、生活習慣や知性が病気の発症にどう影響するかを考えさせます。「Task 1 2つのグラフの組み合わせた問題」では、残業時間と精神疾患の関係を比較し、学習者が「パラフレーズ」「数値表現」「相関のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「複合グラフの相関描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「アルツハイマー病と修道女」）

教材概要

「アルツハイマー病と修道女」は、認知症研究の一環として修道女を対象に行われた調査を紹介する教材です。アルツハイマー病は寿命の延長に伴い発症の可能性が高まる病気であり、高齢者に物忘れや社会性の低下、家族の記憶喪失など深刻な影響を与えます。従来は高齢期に発症すると考えられていましたが、この研究は病気の始まりがもっと早期にあることを明らかにしました。研究者が修道女を選んだ理由は、彼女たちが同質的な生活様式や背景を持ち、アルコールなど思考に影響を与える要因を排除できるためです。これにより、通常の認知症研究で考慮すべき外的要因を除外できました。さらに修道女は22歳から日記をつけており、若年期の認知能力と後年の認知症症状との関係を分析する上で重要な資料となりました。調査の結果、22歳時点で複雑な文章を書いていた修道女ほど、後年に認知症を発症する可能性が低いことが判明しました。これは予想外の結論でした。

主なポイント

- アルツハイマー病は寿命延長に伴い発症可能性が増加
- 高齢者に深刻な影響：物忘れ、社会性低下、家族の記憶喪失
- 修道女を対象にした理由：同質的な生活様式、外的要因の排除
- 22歳からの日記が研究資料として重要
- 若年期の複雑な文章＝高い知性 → 後年の認知症リスク低下
- 語彙学習：likelihood, dementia, onset, nun, cognitive ability, shed light on, rule out, extraneous variable, high intellect, conclusion など

IELTSライティング **Task1** 2つのグラフ組み合わせた問題

教材概要

「IELTS Writing Task 1 — 2つのグラフを組み合わせた問題」は、棒グラフと円グラフを組み合わせて情報を客観的に描写する練習を行う教材です。棒グラフは職業別の月間平均残業時間を、円グラフは精神疾患を持つ人々の職業割合を示しています。

Task 1では、指示文をパラフレーズし、全体の相関関係を簡潔にまとめることが重要です。本論1では棒グラフを分析し、医師が最も残業時間が多く（約43時間）、次にエンジニア（約35時間）、教師とジャーナリスト（約25時間）、写真家は最も少ないことを示します。本論2では円グラフを分析し、残業時間が多い職業ほど精神疾患の割合が高いことを示します。医師が33%、エンジニアが28%、教師とジャーナリストが合計約30%、写真家が最も低い割合です。結論では、残業時間と精神疾患リスクの相関関係を客観的にまとめます。

主なポイント

- Task 1心得：感想や評価を避け、グラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150語以上（理想は160〜200語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の相関関係の描写
- 本論1：棒グラフの分析（職業別残業時間）
- 本論2：円グラフの分析（精神疾患割合）
- 結論：残業時間が多いほど精神疾患リスクが高いことをまとめる
- 使用表現例：correlation, likelihood, account for, rise in proportion to, follow closely behind, suffer from mental issues など

Lesson 38:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、進化の事例を題材に語彙を学び、環境と進化の関係を理解させること、そしてIELTSライティングTask 1 案内図とグラフを組み合わせた問題を通じて「変化の描写」と「客観的表現力」を習得させることです。「動物の進化」では、同じ環境下で動物が同じ進化を遂げる可能性を考えさせます。「Task 1 案内図＋グラフ案内図とグラフを組み合わせた問題」では、改装による変化と満足度の関係を比較し、学習者が「パラフレーズ」「位置表現」「変化のディスコースマーカー」を習慣化することを目指します。例題を用いて「案内図とグラフの変化描写練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「動物の進化」）

教材概要

「動物の進化」は、ハネカクシ（rove beetle）の進化を題材にした教材です。ハネカクシは通常、アリのコロニーに突入して幼虫や小さなアリを捕食し、反撃される前に飛び出すという方法で生きています。しかし、12種類のハネカクシはアリに似るように進化し、コロニーの中で一年中暮らすようになりました。腹部が大きくなり、脚が長くなり、アリの匂いまで模倣することで仲間として認識されるようになったのです。この進化のメリットは明らかです。地下の温暖な気候は理想的で、食糧供給も豊富であり、捕食者から安全に繁殖できます。驚くべきことに、12種類すべてのハネカクシが同じ方法で、しかも独立して進化を遂げました。科学者たちは、同じ環境下では動物が同じ進化の道筋をたどると考えています。

主なポイント

- ハネカクシはアリを捕食するが、12種類はアリに似るよう進化
- 腹部の拡大、脚の伸長、匂いの模倣による「アリ化」
- コロニー内での生活は温暖な気候・豊富な食糧・安全な繁殖環境を提供
- 12種類すべてが同じ進化を独立して遂げたことが科学者を驚かせた
- 同じ環境下では動物が同じ進化の過程をたどる可能性
- 語彙学習：evolutionary trait, prey on, larvae, dash out, evolve, abdomen, copycat, secrete, masquerade, self-evident, ample, identical, independently, circumstance など

IELTSライティング **Task1** 案内図とグラフ組み合わせ

教材概要

「IELTS Writing Task 1 案内図とグラフを組み合わせた問題」は、博物館の改装前後の案内図と、満足度アンケートの円グラフを組み合わせて分析する練習を行う教材です。Task 1では、指示文をパラフレーズし、全体の変化を簡潔にまとめることが重要です。本論1では案内図の変化を分析し、改装前は入口近くに大きな宇宙ギャラリーがあったが、改装後はカフェに変わり、歴史ギャラリーはキッズクラフトコーナーに置き換えられたことを示します。野生動物展示は拡大され、プラネタリウムはそのまま残りました。本論2では円グラフを分析し、改装前は男性の満足度が高かったが、改装後は女性と子どもの満足度が大幅に上昇したことを示します。結論では、改装によるレイアウトの変化が顧客満足度の変化につながったことをまとめます。

主なポイント

- Task 1心得：感想や評価を避け、案内図とグラフから読み取れる情報のみを描写
- 語数：150語以上（理想は160～200語）
- 導入：指示文のパラフレーズ＋全体の変化の描写

- 本論1：案内図の変化（宇宙ギャラリー→カフェ、歴史ギャラリー→キッズコーナー、野生動物展示拡大）
- 本論2：円グラフの変化（男性満足度減少、女性・子ども満足度増加）
- 結論：レイアウトの変更が顧客満足度の変化をもたらした
- 使用表現例：undergo refurbishment, remain the same, be replaced by, adjacent to, satisfaction level, appealing for, carry out renovations など

Lesson 39:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、言語の社会的影響を題材に語彙を学び、発音の変化が人間関係や社会階級にどう関わるかを理解させること、そしてIELTSライティングTask 2 動物がテーマの問題 を通じて「賛否両論の整理」と「論理的な意見表明力」を習得させることです。「イギリス女王の発音」では、会話による発音の変化を考察し、社会的背景を理解させます。「Task 2 動物テーマの問題」では、賛成派と反対派の意見をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー」「論理的展開」を習慣化することを目指します。授業運営では、例題を用いて「言語変化の要約練習」「動物実験の賛否エッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「イギリス女王の発音」）

教材概要

「イギリス女王の発音」は、エリザベス女王の発音の変化を題材にした教材です。女王は非常に明瞭な話し方で知られていましたが、1957年の就任演説から近年のクリスマススピーチまでを比較すると、上流階級特有の「カットグラス」発音から、標準的な中産階級の発音へと微妙ながら顕著な変化が見られます。初期には寄宿学校教育によって培われた容認発音（RP）を用いていましたが、時が経つにつれ、視聴者の「エスチュアリー英語」に近づいていきました。

この変化は意識的な模倣ではなく、会話の中で人々が互いに影響し合う自然な現象によるものです。人は会話を重ねるごとに発音がわずかに混ざり合い、理解を深めたり、良好な人間関係を築いたり、対立の中で妥協点を見出す助けとなります。女王もまた、貴族階級以外の人々と接触する機会が増えるにつれ、その発音を取り入れるようになったと考えられます。ただし、依然として非常に正式な話し方を保ち、日常口語で話すことはありませんでした。

主なポイント

- 1957年：容認発音（RP）による上流階級的な発音
- 時間の経過とともに中産階級的な発音へ微妙に変化
- 会話の影響で発音が混ざり合う現象（rapport, comprehension, disputes）
- 女王は依然として正式な発音を維持し、日常口語は用いなかった
- 語彙学習：diction, shift, Received Pronunciation, Estuary English, subject, dispute, vernacular, merge, build rapport, comprehension など

IELTSライティング **Task2** 動物がテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 動物がテーマの問題」は、動物実験の是非について議論するエッセー問題を扱う教材です。指示文では「動物実験は新薬や製品の安全性確認に広く使われているが、倫理的に間違っているため禁止すべきとする意見」と「人類に有益であるため支持する意見」の両方を論じ、自分の意見を述べることが求められます。

Task 2では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論1で賛成派の意見（人間への害が少ない、大量実験が可能、低コスト）、本論2で反対派の意見（動物に害を与える、倫理的問題、代替手段の存在）を整理します。結論では、自分の立場を明確に述べ、全体をまとめます。さらに、議論の両側面をバランスよく提示することで、論理性と一貫性を高め、採点基準に沿った高得点につながります。

この課題を指導する際には、学習者が「賛成派」「反対派」の両方の立場を公平に描写できるようにサポートすることが重要です。特に、ディスコースマーカー（Although, On the other hand, In

contrast など）を適切に使うことで、論理展開が明確になり、文章全体の流れが自然になります。講師は、学習者が自分の意見を述べる際に感情的な表現に偏らず、客観的な根拠を伴った主張を組み立てられるよう指導することが求められます。

主なポイント

- Task 2心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250語以上（理想270〜300語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論1：賛成派の意見（人間への害が少ない、大量実験可能、低コスト）
- 本論2：反対派の意見（動物に害を与える、倫理的問題、代替手段あり）
- 結論：動物実験は禁止すべき、自分の意見を明確に提示
- 使用表現例：I personally think that…, stand by the opinion that…, take legal responsibility, moral burden, advanced technology, computer simulations, in conclusion など

Lesson 40:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、科学技術の進歩を題材に語彙を学び、バラの香りの復活が遺伝子研究によって可能になったことを理解させること、そしてIELTSライティングTask 2　ロボットがテーマの問題を通じて「賛否両論の整理」と「論理的な意見表明力」を習得させることです。「バラの香り」では、科学技術が自然の特性を再現する可能性を考えさせます。「Task 2 ロボットがテーマの問題」では、賛成派と反対派の意見をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー」「条件表現」を習慣化することを目指します。例題を用いて「ロボットの賛否エッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「バラの香り」）

教材概要

「バラの香り」は、バラの香りが失われた背景と最新のゲノム解析による復活の可能性を題材にした教材です。徹底的な選抜育種によって鮮やかな色を優先した結果、多くの品種が独特の香りを失いました。しかし、近年のゲノム解析技術の進歩により、香りを生み出す遺伝子を特定し、再び香りを持つバラを作り出すことが可能になっています。以前は園芸家が試行錯誤で交配を行っていましたが、時間がかかり成功の保証もありませんでした。ゲノム解析はかつて法外に高価で、麦などの主要作物に限られていましたが、現在では費用が大幅に下がり、科学者は個々の遺伝子を選び、交配期間を短縮できるようになりました。遺伝子学者は、バラの花びらから香りを放つ酵素を突き止め、これを利用して鮮やかな色と香りを兼ね備えた交配種を作り出せるようになったのです。

主なポイント

- 選抜育種により香りが失われ、色が優先された
- ゲノム解析の進歩で香りを生み出す遺伝子を特定
- 以前は試行錯誤の交配で時間がかかり成功も不確実
- 現在は費用が下がり、個々の遺伝子を選び交配期間を短縮可能
- 酵素が香りの原因であり、受粉や繁殖に不可欠
- 科学者は色と香りを兼ね備えた交配種を作り出せる
- 語彙学習：breeding, distinctive, horticulturist, crossbreed, time-consuming, staple crop, geneticist, ascertain, enzyme, petal, pollination, reproduction, hybrid など

IELTSライティング **Task2** ロボットがテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 ロボットがテーマの問題」は、ロボットの社会的影響について賛否両論を論じるエッセー問題を扱う教材です。指示文では「ロボットは人類の発展に重要」とする意見と「ロボットは危険で社会に悪影響を与える」とする意見の両方を論じ、自分の意見を述べることが求められます。

Task　2では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論1で賛成派の意見（効率性の向上、単純作業や力仕事の代替）、本論2で反対派の意見（技術的な不具合、システム障害、ハッキングの危険性）を整理します。結論では、自分の立場を明確に述べ、全体をまとめます。さらに、ロボットの利点と危険性を両方提示することで、論理性と一貫性を高め、採点基準に沿った高得点につながります。

主なポイント

- Task 2心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250語以上（理想270〜300語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論1：賛成派の意見（効率性向上、単純作業・力仕事の代替）
- 本論2：反対派の意見（技術的な不具合、システム障害、ハッキングの危険性）
- 結論：ロボットは必要だが、危険性を認識し予防策を取るべき
- 使用表現例：pose a major threat, boost the economy, massive breakdown, steal confidential information, take precautions, evolve and benefit humanity など

Lesson 41:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、古代社会におけるビールの役割を題材に語彙を学び、農業社会の成立における文化的要因を理解させること、そしてIELTSライティングTask 2 テクノロジーがテーマの問題を通じて「長所と短所の整理」と「論理的な意見表明力」を習得させることです。「ビール製造の歴史」では、アルコールが社会的役割を果たした点を考察させます。「Task 2 テクノロジーがテーマの問題」では、賛成派と反対派の意見をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー」「論理的展開」を習慣化することを目指します。例題を用い「オンライン交際の賛否エッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「ビール製造の歴史」）

教材概要

「ビール製造の歴史」は、農業社会の成立においてパンではなくビールが最初のきっかけだった可能性を探る教材です。一般的には穀物はパンを作るために栽培化されたと考えられていますが、9000年前の遺物がイラクや中国で発掘され、ビールの醸造に使われた痕跡が見つかっています。これはパンの登場よりも数百年早いものであり、ビールが農業社会の始まりに関わった可能性を示しています。

当時、ビールは抗菌作用を持ち、病原体や不純物を取り除くためパンよりも安全でした。さらにアルコールは社会的役割も果たしました。祖先はリーダーに服従することで生存を助けられましたが、自分たちで問題を解決するためには社会的束縛から抜け出す必要がありました。その抑制を弱める手段の一つがアルコールであり、人々は自由に本音を語ることができたのです。

主なポイント

- 農業社会の始まりはパンではなくビールだった可能性
- 9000年前の遺物にビール醸造の痕跡（イラク・中国）
- パンよりも早く登場し、安全性も高かった
- ビールの抗菌作用が病原体や不純物を除去
- アルコールが社会的束縛を弱め、人々が本音を語る手段となった
- 語彙学習：roam, domesticate, brew, pathogen, relic, excavate, advent, paradoxical, property, impurity, pivotal, subservience, suppress, inhibition, speak one's mind など

IELTSライティング **Task2** テクノロジーがテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 テクノロジーがテーマの問題」は、オンライン交際の利点と欠点を論じるエッセー問題を扱う教材です。指示文では「技術の進歩によりオンライン交際が人気になった」という事実を踏まえ、良い面と悪い面を考慮して自分の意見を述べることが求められます。

Task 2では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論1で賛成派の意見（どこでも交際可能、経済的負担が少ない）、本論2で反対派の意見（関係が簡単に切れる、相手の真実性を見極めにくい、犯罪に巻き込まれる可能性）を整理します。結論では、自分の立場を明確に述べ、全体をまとめます。さらに、オンライン交際の便利さを認めつつも、対面での交流が長期的な関係構築に不可欠であることを強調します。

主なポイント

- Task 2心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250語以上（理想270〜300語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論1：賛成派の意見（どこでも交際可能、経済的負担が少ない）
- 本論2：反対派の意見（関係が簡単に切れる、相手の真実性を見極めにくい、犯罪リスク）
- 結論：オンライン交際は便利だが、対面での交流が長期的関係構築に不可欠
- 使用表現例：gain popularity, advantages and disadvantages, cut off relationships, discern identity, stick to the traditional style, face-to-face interaction, build long and strong relationships など

Lesson 42:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的事件を題材に語彙を学び、宗教対立や社会的記念行事の背景を理解させること、そしてIELTSライティングTask 2 健康がテーマの問題を通じて「複数の理由を整理し論理的に意見を述べる力」を習得させることです。「ガイ・フォークス」では、宗教的背景と陰謀事件の流れを理解させ、文化的行事としての継承を考察させます。「Task 2 健康がテーマの問題」では、賛成派と反対派の意見をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー」「論理的展開」を習慣化することを目指します。例題を用い「医療費負担に関するエッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「ガイ・フォークス」）

教材概要

「ガイ・フォークス」は、1605年に起きた「火薬陰謀事件」と、それを記念するイギリスの伝統行事「ボンファイヤー・ナイト」を題材にした教材です。毎年11月5日、イギリス各地の町では花火大会やかがり火が行われ、ガイ・フォークスの人形を燃やしてこの出来事を祝います。

事件の背景には、カトリックとプロテスタントの宗教的対立がありました。カトリックの一団は、プロテスタントの王ジェームズ1世を暗殺し、カトリックの女王を擁立しようと企てました。彼らは議会開会式の日に爆弾を爆発させる計画を立て、議会の地下に20樽の火薬を隠しました。ガイ・フォークスは火薬の見張り役でしたが、匿名の警告の手紙によって陰謀は発覚し、11月5日早朝に逮捕されました。最初は反抗的だったフォークスも最終的に自白し、処刑されました。この事件は現在も人々に記憶され、祭りとして受け継がれています。

主なポイント

- 11月5日に行われる「ボンファイヤー・ナイト」：花火、かがり火、人形焼却
- 背景：カトリックとプロテスタントの宗教的対立
- 陰謀：ジェームズ1世暗殺とカトリック女王擁立を企てる
- 計画：議会地下に20樽の火薬を隠す
- 発覚：匿名の手紙で警告、早朝に逮捕
- 結末：ガイ・フォークスは自白し処刑、事件は人形焼却で記念される
- 語彙学習：bonfire, effigy, rebel, House of Lords, conflict, assassinate, Parliament, session, barrel, conceal, arrest, defiant, confess, commemorate な

IELTSライティング **Task2** 健康がテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 健康がテーマの問題」は、医療費を政府が負担すべきかどうかについて議論するエッセー問題を扱う教材です。指示文では「個人が自分の健康に責任を持つべきであり、政府は医療費を負担すべきではない」という意見に対して、賛否を論じることが求められます。Task 2では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論1で「貧困層が医療を受けられなくなる」という理由、本論2で「生まれつき病気や欠陥を持つ人が不公平になる」という理由、本論3で「生活環境による健康リスクがある」という理由を整理します。結論では、政府は医療費を完全に負担すべきではないが、妥当な割合を負担するべきだとまとめます。さらに、医療費が安すぎると人々が健康管理に無責任になる可能性があるため、費用は適度に設定されるべきだと強調します。

主なポイント

- Task 2心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250語以上（理想270〜300語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論1：貧困層は医療費が高いと治療を受けられない
- 本論2：生まれつき病気や欠陥を持つ人が不公平になる
- 本論3：生活環境による健康リスク（都市の大気汚染、衛生環境の悪さ）
- 結論：政府は医療費を部分的に負担すべき、費用は安すぎず高すぎない水準に設定する
- 使用表現例：be held responsible for, provide financial support, innate health problems, vulnerable to sickness, remote area, infectious disease, protect the well-being, at an affordable price, medical expenses など

Lesson 43:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、現代社会における巨大空港の拡張とその影響を題材に語彙を学び、都市開発と地域社会の摩擦を理解させること、そしてIELTSライティングTask 2環境がテーマの問題を通じて「長所と短所の比較」と「論理的な意見表明力」を習得させることです。「巨大空港」では、空港拡張の利点と地域社会への影響を考察させます。「Task 2 環境がテーマの問題」では、化石燃料と代替エネルギーの両方をバランスよく整理し、学習者が「パラフレーズ」「ディスコースマーカー（会話や文章において論理的な流れを示す接続表現のこと）」「論理的展開」を習慣化することを目指します。例題を用いて「社会問題の要約練習」「環境問題の賛否エッセー練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。

語彙（**IELTS**英単語「巨大空港」）

教材概要

「巨大空港」は、21世紀における空港の急速な拡張と、それが社会や地域に与える影響を題材にした教材です。飛行機は長距離移動の効率的な手段であり、多くの路線はハブ空港を経由して地方便へと乗り継ぎます。しかし、乗り継ぎ客の急増により深刻な混雑が発生しています。これに対応するため、空港は縮小版都市のように変貌しつつあります。

例えば、カタールの首都に新設された巨大空港は都市の3分の2の規模を誇り、ドバイの巨大空港は年間1億6,000万人を往来させる予定です。さらに、空港内にはカジノや一流レストラン、ショッピングモールなど贅沢な施設が整備されています。しかし、都市のスプロール現象が空港に及ぶと、地元住民との摩擦が生じます。騒音による睡眠妨害、水資源の空港への転用、送電網の過負荷、さらには空港施設が地元商業と直接競合するなどの問題が発生します。

主なポイント

- ハブ空港を経由する乗客の急増による混雑
- 空港が縮小版都市のように拡張（カタール、ドバイの事例）
- 空港施設の豪華化（カジノ、レストラン、商業施設）
- 都市スプロールによる摩擦：騒音、資源転用、送電網過負荷
- 空港施設と地元商業の競合
- 語彙学習：hub, congestion, transform, shuttle, top-notch, divert, power grid, urban sprawl, friction, overload, competition など

IELTSライティング **Task2** 環境がテーマの問題

教材概要

「IELTS Writing Task 2 環境がテーマの問題」は、化石燃料と代替エネルギーの利点・欠点を比較し、どちらをより広く使うべきかを論じるエッセー問題を扱う教材です。指示文では「多くの国が化石燃料を使用しているが、代替エネルギーを主とする国もある」と提示され、両方の側面を考慮して自分の意見を述べることが求められます。

Task 2では、導入で一般的事実と主題文を提示し、本論1で化石燃料の利点（低コスト、既存施設利用可能）と欠点（環境汚染、温暖化促進、枯渇性）を整理します。本論2では代替エネルギーの利点（環境に優しい、資源が枯渇しない）と欠点（高コスト、新施設や技術者が必要）を整理します。結論では、代替エネルギーの使用を奨励すべきだと述べ、持続可能で環境に優しい社会を次世代に残す必要性を強調します。

主なポイント

- Task 2心得：導入と結論以外で主観的主張を避ける、250語以上（理想270〜300語）
- 導入：一般文＋主題文（賛否両論提示＋自分の意見）
- 本論1：化石燃料の利点（低コスト、既存施設利用）と欠点（環境汚染、温暖化、枯渇）
- 本論2：代替エネルギーの利点（環境に優しい、資源が枯渇しない）と欠点（高コスト、新施設必要）
- 結論：代替エネルギーの使用を奨励すべき、持続可能な社会を次世代に残す
- 使用表現例：pros and cons, sustain industries, release toxic gases, run out, inexhaustible, renewable energy, environmentally friendly, for following generations など

Lesson 44:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、歴史的建設プロジェクトを題材に語彙を学び、技術的困難や国際協力の重要性を理解させること、そしてIELTSスピーキングのIntroductionを通じて「意見を述べる力」「理由を説明する力」「具体例を挙げる力」を習得させることです。「英仏海峡トンネル」では、建設の歴史的背景と技術的課題を理解させ、学習者が自分の言葉で説明できるようにします。IELTSスピーキングの「Introduction」では、試験構成や評価基準を踏まえ、学習者が論理的に話を展開できるように練習を進めます。例題を用いて「スピーキング試験の模擬練習」を繰り返し行い、学習者に実践的なスキルを定着させることが重要です。サポートとしては、語彙リストやスピーキング用の表現集を提供し、学習者が論理的に話を展開できるようにガイドラインを準備します。

語彙（**IELTS**英単語「英仏海峡トンネル」）

教材概要

「英仏海峡トンネル」は、イギリスとフランスを結ぶ海底トンネルの建設史を題材にした教材です。最初の試みは1802年、フランス人鉱山技師が馬車を通す構想を描いたことに始まりますが、失敗に終わりました。その後も提案は続きましたが政府により断念されました。1985年になって銀行と建設会社の連合が商業的事業として計画を引き継ぎ、1993年完成を目標に環境影響を評価しながら準備を進めました。実際の掘削開始は1988年であり、長い忍耐を要しました。英国側は石灰質の土壌で掘削が比較的容易でしたが、フランス側は異なる土壌で障害物を避ける困難な作業となりました。巨大な掘削機の回転刃で岩を切り進めましたが、問題が次々に発生し、費用の増大が計画を遅らせました。1990年12月1日、イギリス人グラハム・ファッグとフランス人フィリップ・コゼットがトンネル内で出会い、掘削が完了しました。

主なポイント

- 1802年：馬車を想定した最初の計画は失敗
- 1985年：銀行と建設会社の連合が商業事業として計画を再開
- 1988年：掘削開始、1993年完成を目標に進行
- 英国側は石灰質で掘削容易、フランス側は障害物が多く困難
- 費用増大と問題発生で遅延
- 1990年12月：英仏両国の掘削者がトンネル内で合流し完成
- 語彙学習：envisage, submit a proposal, abandon, alliance, commercial venture, measure, deadline, commence, boring machine, blade, obstacle, setback, escalating cost, counterpart, bring to completion など

IELTSスピーキング **Introduction**

教材概要

IELTSスピーキングは、受験者が自分の意見を論理的に展開し、理由や具体例を挙げながら話す力を測る試験です。スピーキング力は単なる英語力だけでなく、論理的な構成力、語彙の選択、発音の明瞭さ、そして自然なコミュニケーション姿勢が総合的に評価されます。試験は3つのパート Part1（自己紹介）、Part2（テーマに関するスピーチ）、Part3（深掘り質問）に分かれており、日常的な質問から抽象的な議論まで幅広く対応する必要があります。ポイントは流暢さ・語彙力・文法の正確さ・一貫性という4つの評価基準を意識しながら答えることです。

主なポイント

- 試験構成
  - Part 1：身近な話題（家族、趣味、仕事、旅行など）
  - Part 2：トピックカードに基づく1〜2分間のスピーチ
  - Part 3：Part 2に関連した抽象的・発展的な質問への回答
- 評価基準
  - 流暢さと一貫性（Fluency & Coherence）
  - 語彙力（Lexical Resource）
  - 文法の正確さと多様性（Grammatical Range & Accuracy）
  - 発音（Pronunciation）
- 効果的な答え方
  - 意見を明確に述べる（I believe…, In my opinion…）
  - 理由を説明する（because…, due to…, the reason is…）
  - 具体例を挙げる（For example…, One good illustration is…）
  - ディスコースマーカーを活用（On the one hand…, In contrast…, As a result…）

Lesson 45:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、イギリス人の外国語習得を題材に語彙を学び、外国語習得の社会的背景理解させると同時に、基礎的な文法練習を通じてスピーキング力を強化することです。「イギリス人の外国語習得」では、教育制度や学習意欲の問題を考察させ、外国語学習の重要性を意識させます。「IELTSスピーキング Warming Up (1~10)」では、基本文型と時制を繰り返し練習させ、学習者が即座に正しい文を作れるように指導します。例文を音読・暗唱させ、ペアワークで質問と回答を練習させることが効果的です。

語彙（**IELTS**英単語「イギリス人の外国語習得」）

教材概要

「イギリス人の外国語習得」は、グローバル化が進む現代社会において外国語学習の重要性が高まっているにもかかわらず、イギリス人が外国語習得に苦手意識を持つ背景を題材にした教材です。多言語を話せる従業員は国際ビジネスにおいて需要が高く、文化的規範を理解し不適切な行動を避けることができるため、競争の激しい労働市場で優位に立つことができます。しかし、イギリス人は世界的に「外国語が不得意な国民」として知られており、ヨーロッパ諸国の52%が外国語を使えるのに対し、イギリス人はわずか38%しか外国語を使えません。その理由は教育制度にあります。中等教育では大学進学のためにAレベルの成績が最優先されますが、言語科目は他教科より難しいと認識されているため敬遠されがちです。さらに、若者は外国語学習の有用性を十分に理解せず、授業中に興味を失うことも多いです。これに対応して地方自治体は、子供たちをより早い段階から外国語に触れさせ、学習意欲を高める取り組みを進めています。目的は、学生が外国語習得を妨げられず、積極的にこの重要なスキルを身につけることです。

主なポイント

- グローバル化に伴い外国語習得の重要性が増大
- 多言語話者は国際ビジネスで需要が高く、文化的規範を理解できる
- イギリス人は外国語習得が不得意で、ヨーロッパ平均より低い習得率
- 原因は教育制度：大学進学優先、言語科目が難しいと認識される
- 若者が外国語の有用性を理解せず、授業で興味を失う傾向
- 地方自治体は早期教育で外国語学習を促進し、意欲を高める取り組みを実施
- 語彙学習：pace, quicken, be in demand, open up, inappropriate, acquire fluency, give an edge, dismal, immediate priority, appreciate, usefulness, switch off, in response to, objective, engage, deter など

IELTSスピーキング **Warming Up**（**1**～**10**）

教材概要

「Warming Up」は、英語の基本的な文型（SV, SVC, SVO, SVOO, SVOC）や時制（現在形、過去形、完了形、未来形）、助動詞（can, may, be able to）を用いた基礎的な文作りを練習する教材です。短い例文を通して、学習者が文法構造を理解し、スピーキングやライティングで即座に使えるようになることを目的としています。

主なポイント

- SV（主語＋動詞）：I am waiting. / I live with my parents.
- SVC（主語＋動詞＋補語）：I am hungry. / Music is important.
- SVO（主語＋動詞＋目的語）：I play the piano. / My parents speak French.

- SVOO（主語＋動詞＋間接目的語＋直接目的語）：I gave him a present. / My mother bought me a bicycle.
- SVOC（主語＋動詞＋目的語＋補語）：I named my dog Momo. / Animals make children happy.
- 時制練習：現在形（I get up early）、過去形（I was lucky）、完了形（I have been to France）、未来形（I will call you later）
- 助動詞練習：I can drive. / You may leave now. / She may not come tonight.

Lesson 46:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、環境問題を題材に語彙を学び、持続可能性の重要性を理解させること、そして基礎文法練習を通じてスピーキング力を強化することです。「グレートバリアリーフ」では、観光と環境保護のバランスを考察させ、学習者が自分の意見を英語で展開できるようにします。「IELTSスピーキング Warming Up（11～20）」では、助動詞や仮定法などを繰り返し練習させ、学習者が即座に正しい文を作れるように指導します。例文を音読・暗唱させ、ペアワークで質問と回答を練習させることが効果的です。

語彙（**IELTS**英単語「グレートバリアリーフ」）

教材概要

「グレートバリアリーフ」は、世界最大級の珊瑚礁であるグレートバリアリーフが観光によって受けている深刻な影響と、その保護の取り組みを題材にした教材です。豊富な珊瑚や熱帯魚などの海洋生物が集まるため、スキューバダイビングの人気スポットとなっていますが、その人気が代償を伴っています。未熟なダイバーが珊瑚を折ってしまったり、ツアー船から流出する油が海面を覆い、日光を遮って珊瑚を窒息させたりしています。2017年までに北部では半分の珊瑚が失われ、長年の放置で状況は悪化しました。

この自然の驚異は存続の危機にあり、適切な対策が必要です。オーストラリア政府は7億ドルの資金を投入することを約束し、ダイバーの人数を制限して排他的な観光地にする提案も出ています。目標は持続可能な方法を見つけ、珊瑚礁が回復することです。この素晴らしい自然現象の存続は、私たちの行動にかかっています。

主なポイント

- グレートバリアリーフは豊富な珊瑚と熱帯魚で世界的に有名
- 観光の人気が環境破壊を招いている（未熟なダイバー、船の油）
- 2017年までに北部で半分の珊瑚が失われた
- 長年の放置で状況が悪化
- 政府は7億ドルを投入し、ダイバー人数制限などの対策を検討
- 持続可能な方法で珊瑚礁を回復させる必要がある
- 語彙学習：array, marine, wealth of, saturate, smother, neglect, under threat, take measures, pledge, sustainable, spring back, tenuous など

IELTSスピーキング **Warming Up**（**11**～**20**）

教材概要

「Warming Up（11～20）」は、助動詞、動名詞、比較、関係詞、仮定法など、英語の文法を体系的に練習する教材です。短い例文を通して、学習者が文法構造を理解し、スピーキングやライティングで即座に使えるようになることを目的としています。

主なポイント

- Should / Must / Have to：I should learn Spanish. / You must not smoke.
- Infinitives（不定詞）：I want to be a pilot. / I went there to see my parents.
- Gerunds（動名詞）：I like reading books. / I am proud of being a teacher.
- Countable / Uncountable Nouns：I eat a slice of bread. / I bought a piece of furniture.
- Adjectives / Adverbs：Writing is really difficult. / The tuition rose dramatically.
- Prepositions / Conjunctions：I work in a factory. / I work hard but I am poor.

- Passive（受動態）: I was born in 1989. / This chair is made of wood.
- Comparison（比較）: I am as tall as my father. / India is the best country I’ve ever been to.
- Relative Clause（関係詞）: This is the town where I was born. / Do you know what I mean?
- Subjunctive Mood（仮定法）: I wish I could speak German. / Without your help, I would not have finished

Lesson 47:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、睡眠の大切さを題材に語彙を学び、睡眠の重要性を理解させると同時に、IELTSスピーキング　1. Study（学習）[リハーサル面接動画対応]の流れに沿った練習を通じて「意見を述べる力」「理由を説明する力」「具体例を挙げる力」を養うことです。「睡眠の大切さ」では、健康と社会的リスクの観点から睡眠不足の影響を考察させます。「IELTSスピーキング　1. Study（学習）[リハーサル面接動画対応]」では、Part　1～3の流れを徹底的に練習し、学習者が試験本番で自信を持って答えられるように指導します。例題を音読・暗唱させ、ペアワークで質疑応答を行い、Part　2ではスピーチ練習を繰り返し、Part　3ではディスカッション形式で抽象的な議論を展開させます。

語彙（**IELTS**英単語「睡眠の大切さ」）

教材概要

「睡眠の大切さ」は、現代社会における睡眠不足の深刻な影響とその改善方法を題材にした教材です。先進国の成人のうち、必要とされる8時間の睡眠を取れている人はわずか3分の1しかいません。コーヒーを飲んで数時間の睡眠で何とかなると考える人もいますが、この戦略は失敗に終わります。カフェインは夜の休息を妨げ、問題をさらに悪化させるからです。研究によれば、睡眠不足は脳の認知機能を低下させ、癌のリスクを高め、仕事のパフォーマンスを損ないます。特に長距離トラック運転手や外科医などが不十分な睡眠で働くことは社会全体を危険にさらします。睡眠不足の原因には、スマートフォンやパソコンの画面の普及、寝室の電灯の光量などがあります。しかし、私たちはもっと眠ることが必須です。体内時計に注意し、テレビ視聴を犠牲にしてでも早く寝ることが重要です。

主なポイント

- 先進国成人の3分の1しか必要な睡眠時間を確保できていない
- コーヒーで補う戦略は失敗に終わる（カフェインが睡眠を妨害）
- 睡眠不足は脳機能低下、癌リスク増加、仕事のパフォーマンス低下を招く
- 長距離運転手や外科医などの職業では社会的リスクが大きい
- 原因：スマホやPC画面、電灯の光など
- 改善策：体内時計に合わせて早寝を心がける

IELTSスピーキング **1. Study**（学習）[リハーサル面接動画対応]

教材概要

「IELTSスピーキング　1. Study（学習）[リハーサル面接動画対応]」は、IELTSスピーキングテストの流れに沿って練習できる教材です。Part　1では身近な質問に答え、Part　2では指定されたテーマについて1～2分間スピーチを行い、Part 3では抽象的な議論を展開します。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

例題

- Do you work or are you a student?
- Why did you choose your major?
- Do you prefer to study alone or with friends?
- Do you like to work in the morning or in the evening?
- What do you plan to do after graduating from university?

指導ポイント
- 質問に対して「主題＋支持文」で答える練習をさせる
- major in / specialise in / read など「専攻する」表現を習得
- get distracted, get stressed など「get+過去分詞」の口語表現を活用

Part 2（スピーチ）
例題
- Describe a memorable event at school.

指導ポイント
- 1分間でメモを取り、2分間スピーチを行う練習
- recall, memorise, learn by heart, slip my mind など「記憶」に関する表現を導入
- tons of ~, move on などのフレーズを使って内容を膨らませる

Part 3（抽象的な議論）
例題
- How has technology changed the way we study?
- What subjects are important for students to study?
- What are the advantages and disadvantages of online learning?
- Is lifelong learning becoming popular?

指導ポイント
- study material, human interaction, ever-changing environments, skills-based subjects などの語彙を活用
- pros and cons, self-discipline, dropout rate など「利点と欠点」を述べる表現を強化
- struggle, suffer from, have difficulty ~ing など「苦労する」表現を練習
- way の多義的な使い方（the way, all the way, by the way, in every way, on one's way to, the other way around）を習得

Lesson 48:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、シェイクスピアを題材に語彙を学び、文学研究における「証拠に基づく議論」と、仕事に関する「具体的経験＋抽象的議論」を英語で展開できる力を養うことです。「シェイクスピア」では、懐疑派の主張と科学的検証の重要性を考察させ、批判的思考を育成します。「IELTSスピーキング 2.Work（仕事）」では、Part 1～3の流れを徹底的に練習し、学習者が試験本番で自信を持って答えられるように指導します。例題を音読・暗唱させ、ペアワークで質疑応答を行い、Part 2ではスピーチ練習を繰り返し、Part 3ではディスカッション形式で抽象的な議論を展開させます。

語彙（**IELTS**英単語「シェイクスピア」）

教材概要

「シェイクスピア」は、世界的に称賛されるウィリアム・シェイクスピアの戯曲や詩の作者性をめぐる議論を題材にした教材です。シェイクスピアは手袋職人の息子でありながら複雑な文体や宮廷の知識を持ち得たのか疑問視され、懐疑派は彼が実在せず、フランシス・ベーコン卿などの貴族の仮名にすぎないと主張しました。しかし、この理論には欠陥があり、彼が包括的な初等教育を受けていたことや、多くの戯曲に署名がある事実を考慮していません。研究者たちはより決定的な方法として「計量文献学（stylometry）」を用いました。これは文章の長さや語句の頻度などの言語学的変数を分析し、作者性と信憑性を特定する学問です。シェイクスピアの作品を綿密に調査し、コンピュータモデルに重ね合わせた結果、彼自身が戯曲を書いたことが明らかになりました。

主なポイント

- シェイクスピアの戯曲・詩は世界中で称賛されている
- 懐疑派は「下層階級出身者が複雑な文体や宮廷知識を持つのは不可能」と主張
- シェイクスピアは仮名であり、実際は貴族が書いたとする説（ベーコン説など）
- 否定派の理論には欠陥：初等教育や署名の事実を考慮していない
- 決定的な方法として計量文献学（stylometry）が用いられた
- 分析結果：シェイクスピア自身が作品を書いたことが明確に示された

IELTSスピーキング　**2.Work**（仕事）

教材概要

「IELTSスピーキング　2.Work（仕事）」は、IELTSスピーキングで頻出するテーマの一つであり、受験者が自分の職業や働き方について論理的に説明する力を養う教材です。Part　1では仕事に関する基本的な質問に答え、Part　2では指定されたテーマについて1～2分間のスピーチを行い、Part　3では抽象的な議論を展開します。仕事に関する語彙や表現を強化し、試験本番で自信を持って答えられるようにすることを目的としています。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

- Do you work or are you a student?
- Why did you choose your job?
- What don’t you like about your job?
- What is unique about your company?

指導ポイント

- 短い回答＋理由付けを練習。仕事に関する基本語彙（work, job, occupation, profession, vocation, task）を使い分ける。

Part 2（スピーチ）
例題
- Describe a job that you think will be important in the future.

指導ポイント
- 1分間でメモを取り、2分間スピーチを行う練習
- accuracy, endurance, creativity, critical thinking, bachelor's degree などの語彙を活用。
- 「知識」に関する表現（have general knowledge, gain knowledge and insight, have intimate knowledge of A, pass knowledge to the next generation）を導入。

Part 3（抽象的な議論）
例題
- What kind of companies are popular in your country?
- What do people prioritise when they choose their work?
- Why do you think people in some jobs make a lot of money?
- Why do some people choose to work in a local company?

指導ポイント
- 抽象的な議論を展開。graduating students, brand recognition, my personal priority, require lengthy training, devote time and energy などのフレーズを活用。
- 「理由・原因」を述べる表現（due to, because of, owing to, thanks to）や「例を挙げる」表現（let's say, for instance, to name a few, such as A）を練習。

Lesson 49:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、リチャード三世を題材に語彙を学び、歴史的評価の再検討を通じて批判的思考を養うこと、家族に関する具体的経験や抽象的議論を展開できる力を養うことです。「リチャード三世」では史実と文学的描写の違いを考察させ、証拠に基づく議論の重要性を理解させます。「IELTSスピーキング 3. Family（家族）」ではPart 1〜3の流れを徹底的に練習し、学習者が試験本番で自信を持って答えられるように指導します。例題を音読・暗唱させ、ペアワークで質疑応答を行い、Part 2ではスピーチ練習を繰り返し、Part 3ではディスカッション形式で抽象的な議論を展開させます。

語彙（**IELTS**英単語「リチャード三世」）

教材概要

「リチャード三世」は、イギリス王リチャード三世（1452–1485）の人物像とその評価を題材にした教材です。一般的には甥を監禁・殺害して権力を握った非情な支配者として知られ、シェイクスピアの戯曲「リチャード三世」では「せむしの悪人」として描かれています。しかし後世の学者たちは、忠誠心や戦時下での誠実な統治などの事実が省かれていると指摘し、彼を「時代の申し子」として再評価する動きもあります。探偵的な調査の結果、駐車場の下から遺骨が発見され、死体解剖で本人と確認されましたが、彼が本当に悪人だったかどうかは依然として明らかではありません。さらに、リチャード三世の評価は「歴史の語り方」に大きく左右されてきました。シェイクスピアの戯曲は政治的プロパガンダの要素を含み、当時の王朝交代を正当化するために彼を悪役として描いた可能性があります。近年の研究では、彼の政策や統治の一部が合理的であったこと、また彼の失脚が必ずしも個人の悪行だけでなく時代の混乱に起因していたことが強調されるようになっています。こうした視点は、歴史人物の評価が固定的ではなく、文献や証拠の解釈によって変化し得ることを学習者に示す良い題材となります。

主なポイント

- 一般的評価：甥を監禁・殺害して権力を握った非情な支配者
- シェイクスピアの戯曲では「せむしの悪人」として描かれる
- 死後、遺体は川に投げ込まれたと噂された
- 学者たちは忠誠心や誠実な統治などの事実が省かれていると指摘
- 「時代の申し子」として再評価される動きもある
- 探偵的調査の結果、駐車場の下から遺骨を発見
- 死体解剖で本人と確認されたが、悪人か否かは未解決

IELTSスピーキング **3. Family**（家族）

教材概要

「IELTSスピーキング 3. Family（家族）」は、IELTSスピーキングで頻出するテーマの一つであり、受験者が家族との関係や役割について論理的に説明する力を養う教材です。Part 1では家族に関する基本的な質問に答え、Part 2では特定の家族についてスピーチを行い、Part 3では抽象的な議論を展開します。家族に関する語彙や表現を強化し、試験本番で自信を持って答えられるようにすることを目的としています。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

- How much time do you spend with your family?

- What do you like to do with your family?
- Do you get along with your family?
- Who is your closest family member?

指導ポイント

- 短い回答＋理由付けを練習。
- 家族と過ごす時間、好きな活動、関係性、最も親しい家族について答える

Part 2（スピーチ）

例題

- Describe your favourite member of your family.

指導ポイント

- 1分間でメモを取り、2分間スピーチを行う練習
- 関係性（祖父、兄弟など）を明確にする
- 特定の家族について「関係性＋頻度＋活動＋理由」を組み合わせて説明する
- 感情的な表現（尊敬、感謝、楽しさ）を加えることで説得力を高める

Part 3（抽象的な議論）

例題

- What role do grandparents play in your country?
- What are the advantages and disadvantages of being in a large family?
- Which is more important, family or friends?
- How do you think the family unit will change in the future?

指導ポイント

- 祖父母の役割、大家族の利点と欠点、家族と友人の比較、家族の将来像について議論する
- 抽象的な議論に具体例を加えて深みを出す練習を行う

Lesson 50:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、「組織市民行動」を題材に語彙を学び、職場での自発的な行動がどのように組織の効率や雰囲気を改善するかを理解させ、学習者に「証拠に基づく議論」の重要性を考えさせます。批判的思考を育成するために、OCBの利点と課題を両面から提示することが効果的です。「IELTSスピーキング 4. Hometown（故郷）」では、Part 1～3の流れを徹底的に練習させ、日常的な経験から抽象的な議論までを自然に展開できるように指導します。音読・暗唱、ペアワーク、スピーチ練習、ディスカッションを組み合わせ、語彙リストやスピーキング用の表現集を提供して論理的に話を展開できるようにサポートします。

語彙（**IELTS**英単語「組織市民行動」）

教材概要

「組織市民行動（Organisational Citizenship Behaviour, OCB）」は、職場で従業員が自発的に行う小さな助け合いを指します。例えば、同僚が困難を乗り越える手助けをしたり、新しい事業につながるヒントを伝えたりする行為です。これらは上司から明確な報酬制度で認められるものではありませんが、社内の結束を強め、従業員に充足感をもたらす効果があります。OCBは単なる流行語ではなく、企業にとって目に見える利益を生み出します。失敗や困難に不満を言わず対応することで前向きな雰囲気を作り出し、外部からの組織の印象を改善します。結果として、個人の任意の行動が会社の効率を高め、成功への推進力となります。さらに、従業員は「巨大な機械の歯車の一つ」ではなく「支援し合える家族の一員」であると感じられるため、個人的な満足感や帰属意識も高まります。

主なポイント

- OCBは上司からの明確な報酬制度に基づかない自発的な行動
- 同僚を助け、新しい事業につながる情報を共有するなどの行為が含まれる
- 社内の結束を強め、従業員に充足感をもたらす
- 不満を言わず困難に対応することで前向きな雰囲気を作り出す
- 外部からの組織の印象を改善し、企業の効率や成功を促進する
- 従業員は「歯車」ではなく「支援し合える家族の一員」と感じられる

IELTSスピーキング **4. Hometown**（故郷）

教材概要

「IELTSスピーキング 4. Hometown（故郷）」は、IELTSスピーキングで頻出するテーマの一つであり、受験者が自分の故郷について具体的に説明し、抽象的な議論を展開する力を養う教材です。Part 1では故郷の住みやすさや好きな点、産業や観光について問われ、Part 2では故郷の人気スポットを描写するスピーチを行います。Part 3では社会的問題や都市への移住理由、故郷改善の方法などを議論します。学習者は「具体例＋理由」で短く答える力と、「抽象的な議論＋具体例」で深みを出す力を養うことができます。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

- Is your hometown a good place to live?
- What do you like most about your hometown?
- What kind of jobs do people do in your hometown?
- Is your hometown a popular place for tourists to visit?

- Has your hometown changed in any way in your lifetime?

指導ポイント
- → 短い回答＋理由付けを練習。故郷に関する基本語彙（hometown, rural area, community, neighbourhood, industry, landscape）を使い分ける。

Part 2（スピーチ）
例題
- Describe a popular place in your hometown.

指導ポイント
- → 1分間でメモを取り、2分間スピーチ。tourist attractions, traditional temples, rural landscape, maximise the potential of ~, futuristic appearance などの語彙を活用。
- 「観点」に関する表現（from my point of view, from an educational perspective, from the point of view of A, in terms of A）を導入。

Part 3（抽象的な議論）
例題
- What social problems are there in your hometown?
- Why do so many people move to live in cities?
- How can you improve your hometown?

指導ポイント
- → 抽象的な議論を展開。invade one's privacy, transportation system, higher-paying jobs, financial resources, revitalise the local community などのフレーズを活用。
- 「理由・原因」を述べる表現（due to, because of, owing to, thanks to）や「例を挙げる」表現（for instance, let's say, to name a few, such as A）を練習。

Lesson 51:

講師へのポイント・サポート内容

授業の狙いは、「ウィキペディア」を題材に語彙を学び、知識共有とボランティア精神がどのように人々を動機づけるかを理解させ、学習者に「社会的価値と個人の充足感の関係」を考察させます。「IELTSスピーキング 5. Accommodation（住まい）」では、Part 1～3の流れを徹底的に練習し、日常的な住まいの説明から理想の家のスピーチ、抽象的な議論までを自然に展開できるように指導します。音読・暗唱、ペアワーク、スピーチ練習、ディスカッションを組み合わせ、語彙リストやスピーキング用の表現集を提供して論理的に話を展開できるようにサポートします。

語彙（**IELTS**英単語「ウィキペディア」）

教材概要

「ウィキペディア」は、21世紀の知識共有とボランティア精神を題材にした教材です。ダニエル・ピンクの動機づけ理論に基づく逸話を紹介し、20世紀末のテクノロジー企業による百科事典と、ボランティアによる無料オンライン百科事典の対比を描いています。当時の経済学者は企業側の百科事典が優位に立つと予想しましたが、利用者はウィキペディアに群がり、2009年には企業側が敗北を認めて撤退しました。ウィキペディアは「自由経済の草分け」として、情報にお金を払うよりもボランティアとして参加する人々の姿勢を示しています。無報酬の編集者が誤りを排除し、適切な情報源を探すことで「大義に貢献した」という充足感を得る点が強調されています。この教材は、知識の共有、ボランティア精神、そして「大義のために働く」ことがどのように人々を元気づけ、社会に影響を与えるかを考察する良い題材となります。

主なポイント

- ダニエル・ピンクの動機づけ理論に基づく逸話を紹介
- 企業による百科事典 vs ボランティアによる無料百科事典の対比
- 経済学者の予想に反し、利用者はウィキペディアに群がった
- 2009年に企業側が敗北を認めて撤退
- ウィキペディアは「自由経済の草分け」として位置づけられる
- 無報酬の編集者が誤りを排除し、適切な情報源を探す
- 編集者は「大義に貢献した」という充足感を得る

IELTSスピーキング **5. Accommodation**（住まい）

教材概要

「IELTSスピーキング 5. Accommodation（住まい）」は、IELTSスピーキングで頻出するテーマの一つであり、受験者が自分の住居について具体的に説明し、理想の住まいや住居に関する社会的議論を展開する力を養う教材です。Part 1では現在の住居や生活環境について問われ、Part 2では理想の家を描写するスピーチを行います。Part 3では住居の重要性や人気の住宅タイプ、持ち家の利点などを議論します。学習者は「具体例＋理由」で短く答える力と、「抽象的な議論＋具体例」で深みを出す力を養うことができます。

主なポイント

Part 1（一般的な質問）

- Do you live in a house or a flat?
- How long have you been living there?
- What do you like about your flat?
- What can you see from the window of your flat?

指導ポイント

- → 短い回答＋理由付けを練習。故郷に関する基本語彙（house, flat, apartment, condominium, bungalow, shared flat）を使い分ける。

Part 2（スピーチ）
例題
- Describe an ideal dream house you would like to live in.

指導ポイント
- → 1分間でメモを取り、2分間スピーチ。numerous, panoramic view, self-sustainable, solar panels, emissions などの語彙を活用。
- 「つなぎ言葉（filler）」の表現（you know, kind of, I mean）を導入。

Part 3（抽象的な議論）
例題
- Is it important for people to live in a large house?
- What kind of homes are popular in your country?
- What do you think are the advantages of living in your own house rather than a rented flat?

指導ポイント
- → 抽象的な議論を展開。burden, advocate, enable, traditional-style tatami room, create opportunities, become more responsible などのフレーズを活用。
- 「掃除」に関する表現（clean, tidy, vacuum, sweep, mop, wipe）や「利点」を述べる表現（you don’t need to worry…, houses with outside space…, buying a house is still a common goal）を練習。

Lesson 52:

IELTSリーディング総合演習（講師用）

使用教材：
IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

本日の授業は、IELTSリーディング模擬テストを用いた60分の演習です。教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題を使用し、試験環境を忠実に再現します。授業の進行は以下の通りです。

- 導入では、試験形式の説明と目的を共有します。
- 模擬テストは時間厳守で実施し、途中解説は行いません。試験環境の維持に注意してください。
- 自己採点の時間を設け、正答確認と誤答分析を行います。
- 振り返りでは、読解戦略を確認し、特に時間配分と設問タイプごとの解答方法に焦点を当てます。

フィードバックでは「なぜ時間が足りなかったか」「どの設問タイプに弱点があるか」を生徒に考えさせ、スキミング・スキャニングの戦略を強調してください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

レッスン目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

指導の流れ
イントロダクション

- IELTSリーディングの構成説明（3セクション、約40問、60分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（60分）

- 公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
- 時間内に全問解答を目指す

自己採点

- 宿題として自己採点を行うことを案内する

フィードバック方法のポイント

- 「時間配分が偏っていませんか？」と問いかける
- スキミング（概要把握）とスキャニング（情報検索）の使い分けを強調

Lesson 52: IELTSリーディング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS公式リーディング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は60分で、以下の流れで進めます。

- まず、リーディング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、模擬テストを本番同様に実施します。時間配分を意識し、全問解答を目指してください。
- 採点を行い、正答と誤答を確認します。
- 最後に振り返りを行い、読解戦略を整理します。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、時間管理を改善すること、そして自分の弱点を把握することが目的です。特に「設問タイプごとの解答方法」を意識して挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ：

イントロダクション
- IELTSリーディングの構成説明（3セクション、約40問、60分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（60分）
- 公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
- 時間内に全問解答を目指す

自己採点
- 宿題として自己採点を行う

学習ポイント
- 時間配分が最大の課題 → 各セクションに均等に時間を割り振る
- 設問タイプ（True/False/Not Given、Matching、Sentence Completion）に慣れる
- キーワードを素早く見つける練習

Lesson 53:

IELTSリスニング総合演習（講師用）

使用教材：
IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

本日の授業は、IELTSリスニング模擬テストを用いた60分の演習です。教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題を使用し、試験環境を忠実に再現します。授業の進行は以下の通りです。

- 導入では、試験形式の説明と目的を共有します。
- 模擬テストは音声を一度のみ再生し、途中停止は行いません。試験環境の維持に注意してください。
- 解答転記の時間を設け、アンサーシート記入の指導を行います。
- 振り返りでは、正答確認と誤答分析を行い、特にスペル間違いや数字・固有名詞の聞き取りに焦点を当てます。
- フィードバックでは「なぜ聞き取れなかったか」を生徒に考えさせ、予測やキーワード把握といった戦略を強調してください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

フィードバックでは「なぜ聞き取れなかったか」を生徒に考えさせ、予測やキーワード把握といった戦略を強調してください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

レッスン目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

指導の流れ
イントロダクション（5分）
IELTSリスニングの構成説明（4セクション、約40問、30分＋転記10分）
・本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（30分）
・公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
・各セクションの音声を一度のみ再生

解答転記（10分）
・答えをアンサーシートに記入
・本番同様の練習

振り返り（15分）
・正答確認と自己採点
・よくある間違いの共有
・学習ポイントまとめ

フィードバック方法のポイント
- 個別に「なぜ聞き取れなかったか」を確認
- 聞き取り戦略（予測、キーワード把握）を強調

Lesson 53: IELTSリスニング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS公式リスニング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は60分で、以下の流れで進めます。

- まず、リスニング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、模擬テストを本番同様に実施します。音声は一度のみ流れますので、集中して取り組んでください。
- 解答時間を設け、アンサーシートに記入します。
- 最後に答え合わせと振り返りを行い、よくある間違いを確認します。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、集中力を高めること、そして自分の弱点を把握することが目的です。スペルや数字の聞き取りにも注意しながら挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ：
イントロダクション（5分）
- IELTSリスニングの構成説明（4セクション、約40問、30分＋転記10分）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（30分）
- 公認問題を使用し、本番同様の形式で受験
- 各セクションの音声を一度のみ再生

解答転記（10分）
- 答えをアンサーシートに記入
- 本番同様の練習

振り返り（15分）
- 正答確認と自己採点
- よくある間違いの共有
- 学習ポイントまとめ

学習ポイント
- 音声は一度しか流れない → 集中力を高める
- スペル・文法の正確さが採点に影響
- ノートテイキングの工夫（略語・記号）

Lesson 54:

IELTSライティング総合演習（講師用）

使用教材：
IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

本日の授業は、IELTSライティング模擬テストを用いた60分の演習です。教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題を使用し、試験環境を忠実に再現します。授業の進行は以下の通りです。

- 導入では、試験形式の説明と目的を共有します。
- 模擬テストは時間厳守で実施し、途中解説は行いません。Task 1とTask 2をそれぞれ20分ずつで取り組ませます。

フィードバックの際「語数不足」「論理展開の弱さ」「文法・語彙の誤り」に焦点を当て、生徒に改善点を考えさせてください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

レッスン目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

指導の流れ
イントロダクション
- IELTSライティングの構成説明（Task 1：約150語、Task 2：約250語）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（60分）
- Task 1（20分）：図表・データの要約
- Task 2（20分）：意見論述エッセイ
- 時間配分を意識して取り組む

自己採点
- 宿題として自己採点を行うことを案内する

フィードバック方法のポイント
- 「段落構成は明確でしたか？」と問いかける

Task Achievement（課題達成度）とCoherence（論理性）を重点的に指摘

Lesson 54: IELTSライティング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS公式ライティング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は60分で、以下の流れで進めます。

- まず、ライティング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、Task　1（図表要約）とTask　2（意見論述）を本番同様に実施します。時間配分を意識し、規定語数を守ってください。
- 採点基準を確認しながら自己採点を行い、改善点を整理します。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、時間管理を改善すること、そして論理的な文章構成力を高めることが目的です。特に「段落構成」と「語数管理」を意識して挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ：
イントロダクション
- IELTSライティングの構成説明（Task 1：約150語、Task 2：約250語）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（60分）
- Task 1（20分）：図表・データの要約
- Task 2（20分）：意見論述エッセイ
- 時間配分を意識して取り組む

自己採点
- 宿題として自己採点を行う

学習ポイント
- Task 1は「要約力」、Task 2は「論理展開力」が鍵
- 語数不足は減点対象 → 必ず規定語数を満たす
- 接続詞や段落構成を意識して、読みやすい文章を作る

Lesson 55:

IELTSスピーキング総合演習（講師用）

使用教材：
IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
上記教材の過去問一つを使用

本日の授業は、IELTSスピーキング模擬テストを用いた60分の演習です。教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題を使用し、試験環境を忠実に再現します。授業の進行は以下の通りです。

- 導入では、試験形式の説明と目的を共有します。
- 模擬テストはPart 1・Part 2・Part 3を順に実施し、途中解説は行いません。試験環境の維持に注意してください。もし長く話せない場合、早く切り上げても問題ないです。（試験方法としてA）生徒数が多い場合、全員一気に質問する、B）生徒数が少ない場合、一人ずつ設問し、持ち時間を調整する　のどちらかを選択し、実施してください。）
- フィードバックでは、採点基準を確認しながら改善点を提示します。特に流暢さ、語彙の幅、文法の正確さ、発音に焦点を当ててください。

フィードバックでは「答えの長さ」「論理展開」「語彙の幅」に焦点を当て、生徒に改善点を考えさせてください。模擬テストを単なる練習に終わらせず、次回への改善点を明確にすることが重要です。

レッスン目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

指導の流れ
イントロダクション
- IELTSスピーキングの構成説明（Part 1: 日常質問、Part 2: 1分準備＋2分スピーチ、Part 3: ディスカッション）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（35分）
- Part 1（10分）：日常的な質問に答える練習
- Part 2（10分）：カードに基づくスピーチ練習
- Part 3（15分）：抽象的テーマでのディスカッション

フィードバック（20分）
- 採点基準（Fluency & Coherence, Lexical Resource, Grammatical Range & Accuracy, Pronunciation）を確認
- 自己評価と講師からの改善アドバイ

フィードバック方法のポイント
- 「答えは短すぎませんでしたか？」と問いかける
- Fluency（流暢さ）とCoherence（論理性）を重点的に指摘

Lesson 55: IELTSスピーキング総合演習（生徒用）

試験案内
本日の授業では、IELTS公式スピーキング模擬テストを実施します。使用する教材はブリティッシュ・カウンシル公認の本番形式問題で、実際の試験と同じ構成・難易度です。授業時間は60分で、以下の流れで進めます。

- まず、スピーキング試験の形式と注意点を確認します。
- 続いて、Part 1（日常質問）、Part 2（スピーチ）、Part 3（ディスカッション）を本番同様に実施します。
- 採点基準を確認しながが、講師から改善点をフィードバックしてもらいます。

この模擬テストを通じて、試験環境に慣れること、即答力を高めること、そして論理的に話を展開する力を養うことが目的です。特に「自然な受け答え」と「論理的な構成」を意識して挑戦してください。

試験の目的
本番形式に慣れ、解答スピードと集中力を養う

試験の流れ：
イントロダクション
- IELTSスピーキングの構成説明（Part 1: 日常質問、Part 2: 1分準備＋2分スピーチ、Part 3: ディスカッション）
- 本日の模擬テストの目的を確認

模擬テスト実施（35分）
- Part 1（10分）：日常的な質問に答える練習
- Part 2（10分）：カードに基づくスピーチ練習
- Part 3（15分）：抽象的テーマでのディスカッション

フィードバック（20分）
- 採点基準（Fluency & Coherence, Lexical Resource, Grammatical Range & Accuracy, Pronunciation）を確認
- 自己評価と講師からの改善アドバイ

学習ポイント
- Part 1は「自然な受け答え」、Part 2は「構成力」、Part 3は「論理的展開」が鍵
- 長く話すことよりも「明確に答える」ことを意識
- 接続詞や例示を使って会話を広げる

Lesson 56:

総括（講師用）

使用教材：
IELTSブリティッシュ・カウンシル公認　本番形式問題3回分
4日間で試験した内容を復習する。

本日の授業は、IELTS総括として復習・見直し・フィードバックを行う60分の演習です。試験を再度実施するのではなく、過去の取り組みを振り返り、改善点を整理することが目的です。
- 導入では採点基準を再確認し、授業の目的を共有します。
- 各技能を順に復習し、誤答や答案を振り返りながら改善点を指導します。
- まとめでは改善点を整理し、次回学習へのアクションプランを提示します。

フィードバックでは「時間配分」「集中力」「論理展開」「語彙力」「発音」に焦点を当て、生徒に改善点を考えさせてください。模擬授業を単なる振り返りに終わらせず、次回への学習計画に結びつけることが重要です。

レッスン目的
4技能の復習を通じて、自分の強みと弱点を明確化し、改善点を把握する

今日ののの流れ：
イントロダクション（5分）
- IELTS4技能の採点基準を再確認
- 本日の授業目的「復習・見直し・改善点整理」を共有

リスニング復習（10分）
- 前回の誤答を確認
- 聞き取り戦略（キーワード予測・ノートテイキング）の見直し

リーディング復習（10分）
- 設問タイプごとの誤答傾向を確認
- 時間配分と読解戦略（スキミング・スキャニング）の整理

ライティング復習（15分）
- Task 1・Task 2の答案を振り返り
- 段落構成・語数管理・論理展開の改善点を確認

スピーキング復習（15分）
- Part 1・Part 2・Part 3の回答を振り返り
- 流暢さ・語彙の幅・論理性・発音の改善点を整理

まとめ（5分）
- 各技能の改善点をリスト化
- 次回学習へのアクションプランを確認

フィードバックのポイント
- 試験環境再現ではなく復習重視：誤答や答案を振り返り、改善点を具体化
- 技能別フィードバック：各技能の採点基準に沿って指摘
- 次回への橋渡し：改善点を次回学習計画に結びつける

Lesson 56: 総括（生徒用）

授業案内
本日の授業は、IELTS模擬試験の総括として、4技能（リスニング・リーディング・ライティング・スピーキング）の復習・見直し・フィードバックを行います。試験を再度実施するのではなく、過去の取り組みを振り返り、改善点を整理することが目的です。

- リスニングでは誤答を確認し、聞き取り戦略を見直します。
- リーディングでは設問タイプごとの誤答傾向を確認し、読解戦略を整理します。
- ライティングでは答案を振り返り、段落構成や語数管理を改善します。
- スピーキングでは回答を振り返り、流暢さ・語彙・論理性・発音を見直します。

この授業を通じて、自分の強みと弱点を明確化し、次回の学習に向けたアクションプランを立てることができます。

目的:
4技能の復習を通じて、自分の強みと弱点を明確化し、改善点を把握する

今日の流れ:
イントロダクション（5分）
- IELTS4技能の採点基準を再確認
- 本日の授業目的「復習・見直し・改善点整理」を共有

リスニング復習（10分）
- 前回の誤答を確認
- 聞き取り戦略（キーワード予測・ノートテイキング）の見直し

リーディング復習（10分）
- 設問タイプごとの誤答傾向を確認
- 時間配分と読解戦略（スキミング・スキャニング）の整理

ライティング復習（15分）
- Task 1・Task 2の答案を振り返り
- 段落構成・語数管理・論理展開の改善点を確認

スピーキング復習（15分）
- Part 1・Part 2・Part 3の回答を振り返り
- 流暢さ・語彙の幅・論理性・発音の改善点を整理

まとめ（5分）
- 各技能の改善点をリスト化
- 次回学習へのアクションプランを確認

学習ポイント
- 「試験を再現する」のではなく「過去の取り組みを振り返る」ことが目的
- 各技能の採点基準を意識し、自分の弱点を具体的に把握する
- 改善点を次回学習に結びつける